

# 小牧市

---

人口ビジョン  
まち・ひと・しごと創生総合戦略

---

Komaki Hometown Creation Guide



キミと一緒に、育っていきたい。  
**Komaki**

# 小牧市民憲章

わたくしたち 小牧市民は、小牧を

1、健康で生きがいのある 明るいまちにしましょう

1、感謝と思いやりのある あたたかいまちにしましょう

1、緑とやすらぎのある 美しいまちにしましょう

1、高い文化と教養のある 豊かなまちにしましょう

1、希望と働く喜びのある 活気あふれるまちにしましょう

昭和60年5月15日制定

## 「夢・チャレンジ 始まりの地 小牧」

小牧山は、織田信長公が天下統一の夢を描き、  
そのチャレンジの第一歩として初めて城を築いた地。

わたしたちの掲げる「夢・チャレンジ」の象徴として相応しい地です。  
小牧市は、その小牧山をみつめ、これからも未来を担うこどもたちが、  
夢を描き、挑戦していく地となれるよう全力を注ぎます。

こどもの夢への挑戦をまち全体で、みんなで応援する。  
そのことが、世代を超えた市民のつながりを生み、  
全ての市民が支え合っていくまちづくりになると確信します。



Komaki  
キミと一緒に、育っていきたい。

小牧市人口ビジョン・  
まち・ひと・しごと創生総合戦略  
(平成27～31年度)

# 目 次

---

## 人口ビジョン及び総合戦略の概要

(1) 人口ビジョン及び総合戦略の位置づけ	1
(2) 人口ビジョン及び総合戦略の期間	2

## 《人口ビジョン》

### 1. 人口の現状分析

(1) 総人口、年齢3区分別人口の推移	6
(2) 人口性比	9
(3) 女性就業率の推移	12
(4) 世帯構成	15
(5) 自然動態	16
(6) 社会動態	21
(7) 愛知県内他市町の人口動向	30

### 2. 人口動向を踏まえた小牧市の強み・弱みと課題

(1) 生活者が居住地に求める要件	33
(2) 生活者要件に対する小牧市の強みと弱みの整理	35

### 3. 人口の将来展望

(1) 目指すべき将来の方向	38
(2) 人口の将来展望	41

# 《総合戦略》

## 1. 基本目標及び諸計画との関係

(1) 人口ビジョンを踏まえた基本目標 ······	46
(2) まち・ひと・しごと創生に向けた政策5原則 ······	48
(3) 国のまち・ひと・しごと創生総合戦略との関係 ······	49
(4) 第6次小牧市総合計画新基本計画及び 小牧市地域ブランド戦略との関係 ······	50
(5) 進行管理 ······	50

## 2. 基本目標における基本的方向と具体的施策

### 基本目標1

持続して発展を続ける産業・経済の確立による

雇用の確保・創出 ······ 51

### 基本目標2

若年世代の希望がかなう結婚・出産・子育て環境の整備  
(こども夢・チャレンジNo.1都市の実現) ······ 56

### 基本目標3

都市の活力と暮らしの安心の創造 ······ 61

### 基本目標4

訪れたくなる、住みたくなる小牧の魅力発信 ······ 66

総合戦略における施策及びKPI一覧表 ······	70
用語解説 ······	74

# 人口ビジョン及び総合戦略の概要

---

## (1) 人口ビジョン及び総合戦略の位置づけ

- ・ 我が国における急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していく必要があります。
- ・ こうした背景のもと、国民一人ひとりが夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会の形成、地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保及び地域における魅力ある多様な就業の機会の創出を一体的に推進することを目的に、平成 26(2014)年 11 月に「まち・ひと・しごと創生法」が制定されました。
- ・ 政府は、「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、平成 26(2014)年 12 月に、人口の現状と将来の姿を示し、今後目指すべき将来の方向を示した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び、今後5か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策を示した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を閣議決定しました。
- ・ 小牧市においては、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」、また、県の「愛知県人口ビジョン」及び「愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案しつつ、「小牧市人口ビジョン」及び「小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定することとしました。

- ・「小牧市人口ビジョン」は、「小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、まち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策を企画立案する上で重要な基礎となるものとして取りまとめたものです。
- ・「小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、「小牧市人口ビジョン」を踏まえ、第6次小牧市総合計画新基本計画や小牧市地域ブランド戦略との整合を図りながら、人口減少克服や地方創生に特化した今後5か年の基本目標や取り組む施策を示したものです。

## (2) 人口ビジョン及び総合戦略の期間

- ・「小牧市人口ビジョン」の対象期間は、国が策定した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」と同様に平成 72(2060)年までとします。
- ・「小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、平成 27 年度から平成 31 年度までの5か年の計画とします。



# 人口ビジョン

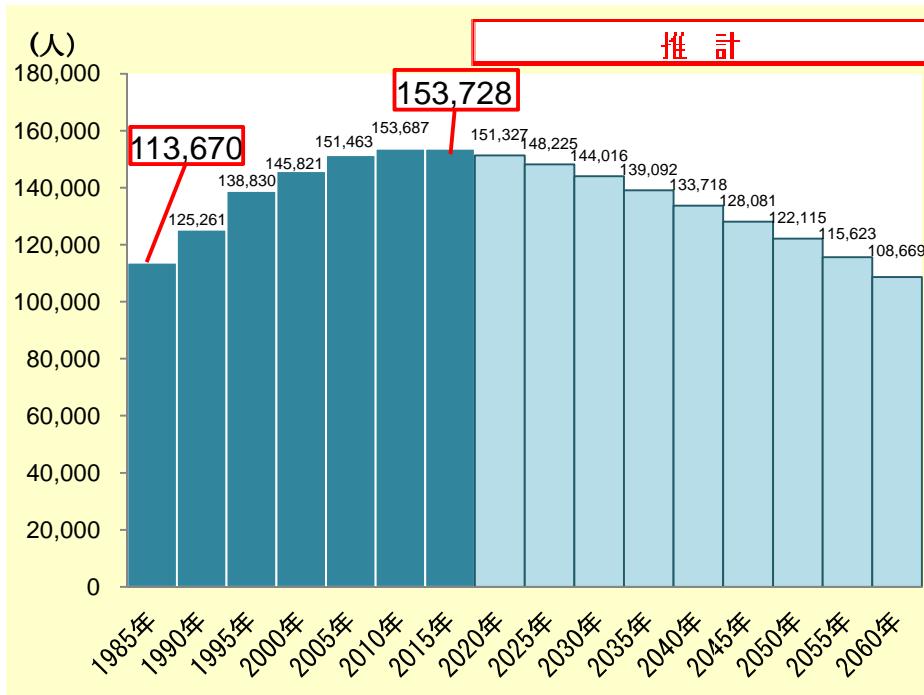


# 1.人口の現状分析

## (1)総人口、年齢3区分別人口の推移

- 小牧市的人口は1985年以降増加し続け、1985年には113,670人であった総人口は、2015年には153,728人に達しています。しかし、2010年から2015年はほぼ横ばいの推移となっており、今後は減少傾向が続くことが推計されています(図1)。

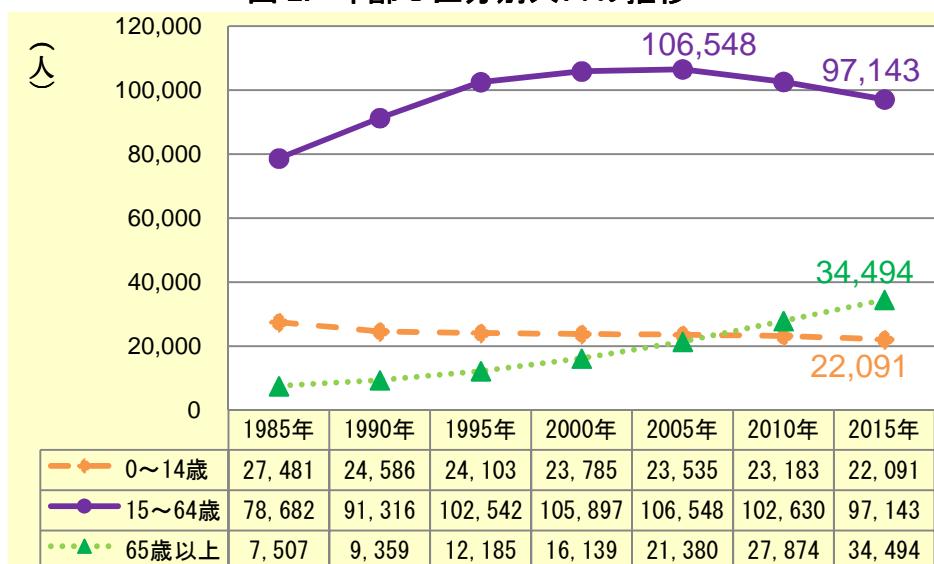
図1. 小牧市の総人口推移と推計



出典：住民基本台帳（各年10月1日現在）

- 小牧市の人団を年齢3区分別にみると、老人人口(65歳以上)は増加し続けており、2015年には34,494人(構成比22.4%)に達しています。一方、年少人口(0~14歳)は減少し続けており、2015年には22,091人(構成比14.4%)となっています。生産年齢人口(15~64歳)は2005年前後をピークに緩やかに減少傾向となり、2015年には97,143人(構成比63.2%)となっています(図2)。

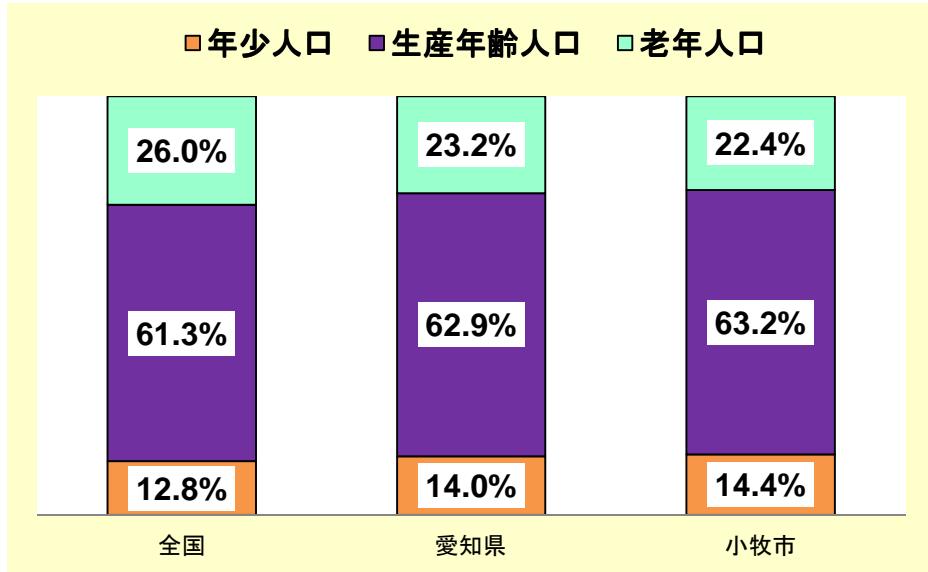
図2. 年齢3区分別人口の推移



出典：住民基本台帳（各年10月1日現在）

- ・ 小牧市の年齢3区分別人口割合(2015年)を全国(2014年)や愛知県(2014年)と比較すると、老人人口の割合は全国や愛知県を下回っており、生産年齢人口と年少人口の割合は全国や愛知県を上回っています(図3)。

**図3. 全国・愛知県・小牧市の年齢3区分別人口割合の比較**

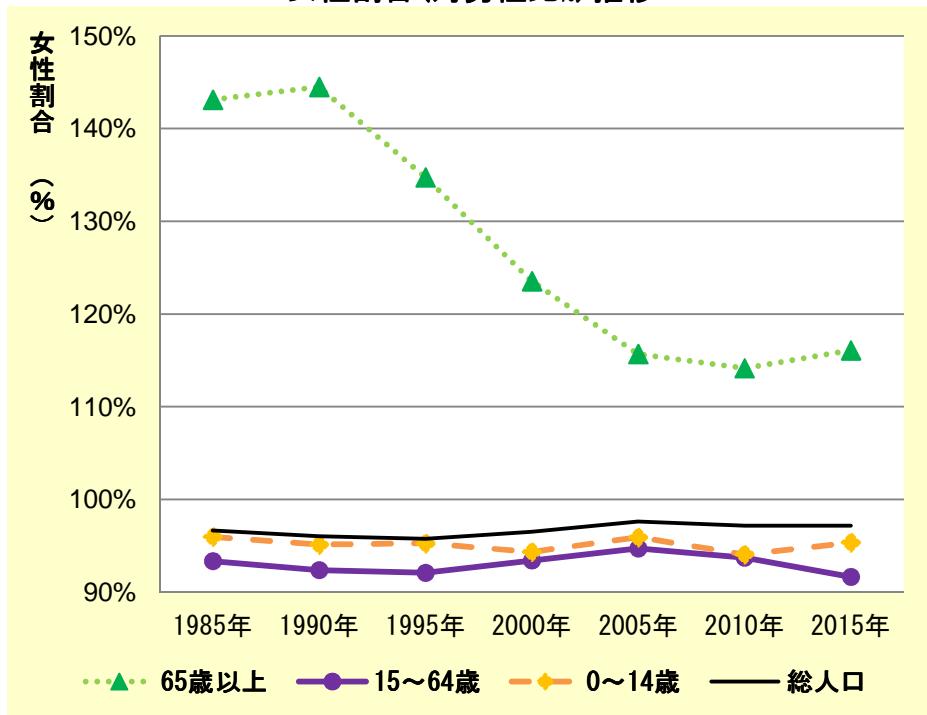


出典：総務省「人口推計」(2014年10月1日現在)、  
住民基本台帳（2015年10月1日現在）

## (2)人口性比

- 小牧市の人団の女性割合は、1985年以降一貫して男性割合を下回っています(男性を100%とした場合の女性比が100%を下回る)。年齢3区別に女性割合を算出すると、年少人口と生産年齢人口に占める女性割合が男性割合を下回っており、女性が男性よりも少ない状況です。一方、老人人口の女性割合は減少傾向であるものの、男性割合を上回っていますが、これは、男女間の平均寿命の差により合理的に説明されます(図4)。

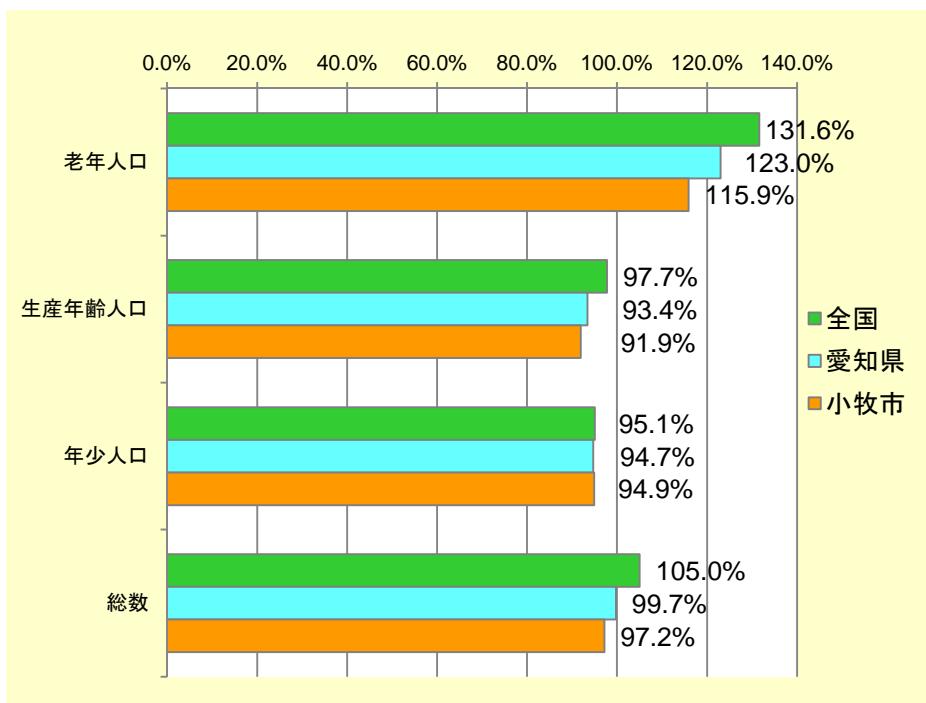
図4. 小牧市の総人口・年齢3区別人口の女性割合(対男性比%)推移



出典：住民基本台帳（各年10月1日現在）

- ・ 小牧市の女性割合(97.2%)は全国(105.0%)や愛知県(99.7%)に比べて低い状況です。年齢区分ごとに比較すると、年少人口における女性割合(94.9%)は全国(95.1%)や愛知県(94.7%)とほぼ同じである一方、生産年齢人口における女性割合(91.9%)は、全国(97.7%)や愛知県(93.4%)に比べてそれぞれ 5.8 ポイント、1.5 ポイント低い状況です。また、老人人口における女性割合(115.9%)は、全国(131.6%)や愛知県(123.0%)に比べてそれぞれ 15.7 ポイント、7.1 ポイント低い状況であり、その差は生産年齢人口における差よりも大きい状況です(図5)。これらの現象に、製造業や運輸業の発達による労働者の男女比率の差が影響していることは次項で言及します。

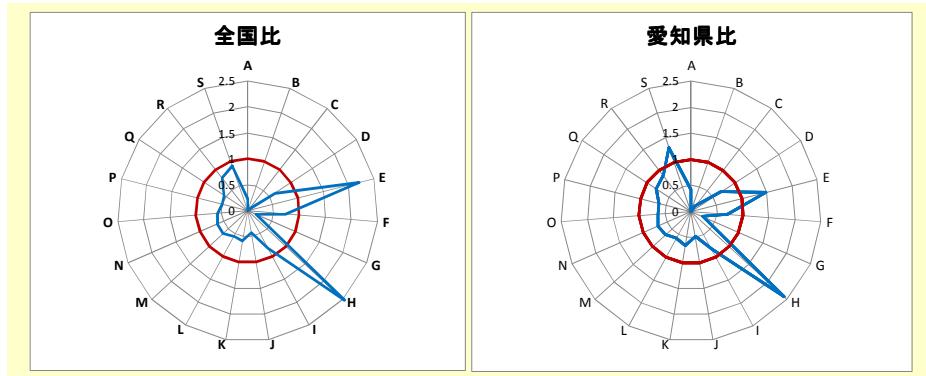
**図5. 小牧市・愛知県・全国の総人口・年齢3区分別人口の女性割合(対男性比%)**



出典：「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」（2015年）

- 2010年の小牧市の産業別特化係数<sup>1</sup>をみると、男性比率が高い製造業(E)、運輸業・郵便業(H)が全国、愛知県に比べて共に高いことから、小牧市の生産年齢人口における女性割合の低さの背景には、製造業や運輸業における就業人口の男女差があると推察されます(図6)。(ただし、就業者数の割合と居住者数の割合が比例するという前提。)

図6. 小牧市の就業者数の産業別特化係数



	就業者数 小牧市(人)	特化係数	
		対愛知県	対全国
総数(男女別)	97,800	-	-
A 農業、林業	832	0.420	0.230
B 漁業	-	-	-
C 鉱業、採石業、砂利採取業	2	0.115	0.055
D 建設業	4,615	0.679	0.629
E 製造業	34,974	1.473	2.215
F 電気・ガス・熱供給・水道業	340	0.698	0.728
G 情報通信業	476	0.238	0.178
H 運輸業、郵便業	13,365	2.425	2.531
I 卸売業、小売業	13,199	0.830	0.821
J 金融業、保険業	1,031	0.489	0.415
K 不動産業、物品販賣業	1,058	0.658	0.579
L 学術研究、専門・技術サービス業	1,735	0.586	0.556
M 宿泊業、飲食サービス業	3,612	0.668	0.643
N 生活関連サービス業、娯楽業	2,292	0.699	0.635
O 教育、学習支援業	2,463	0.638	0.570
P 医療、福祉	5,115	0.639	0.509
Q 複合サービス事業	330	0.794	0.534
R サービス業(他に分類されないもの)	4,462	0.870	0.799
S 公務(他に分類されるものを除く)	3,013	1.295	0.911
T 分類不能の産業	4,846	0.793	0.861

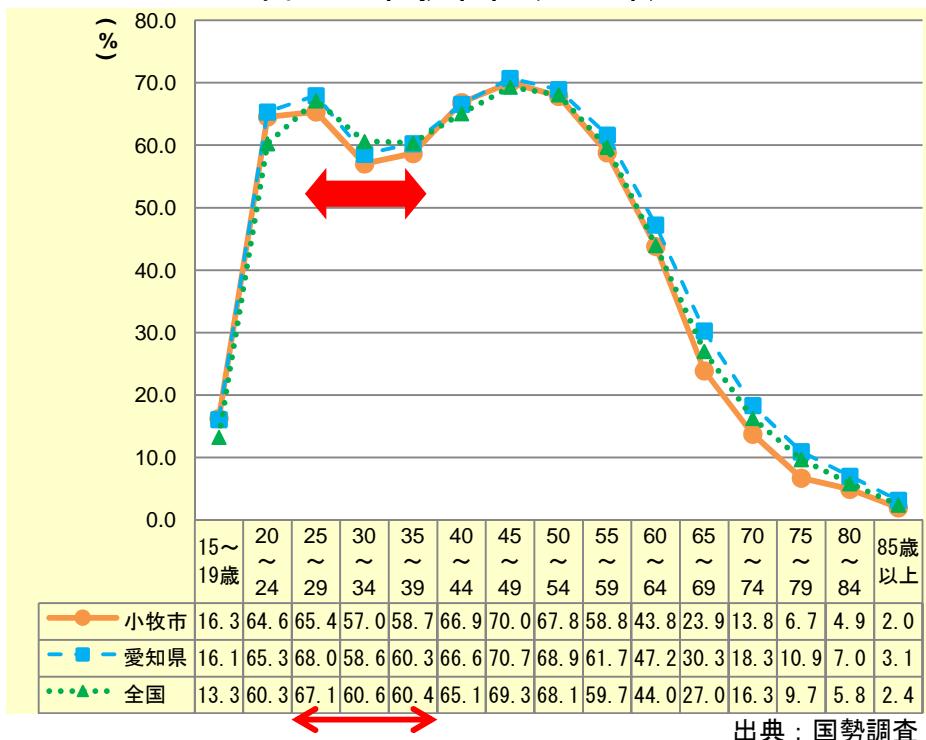
出典：愛知県「愛知県・市町村の社会経済状況」

<sup>1</sup> 特化係数：構成比を特定の集団(全国値や県値など)の構成比で割った係数のことで、この係数が1から離れるほど、当該項目の構成比が特定の集団の構成比に比べて大きな違い(特徴)があることを意味する。

### (3)女性就業率の推移

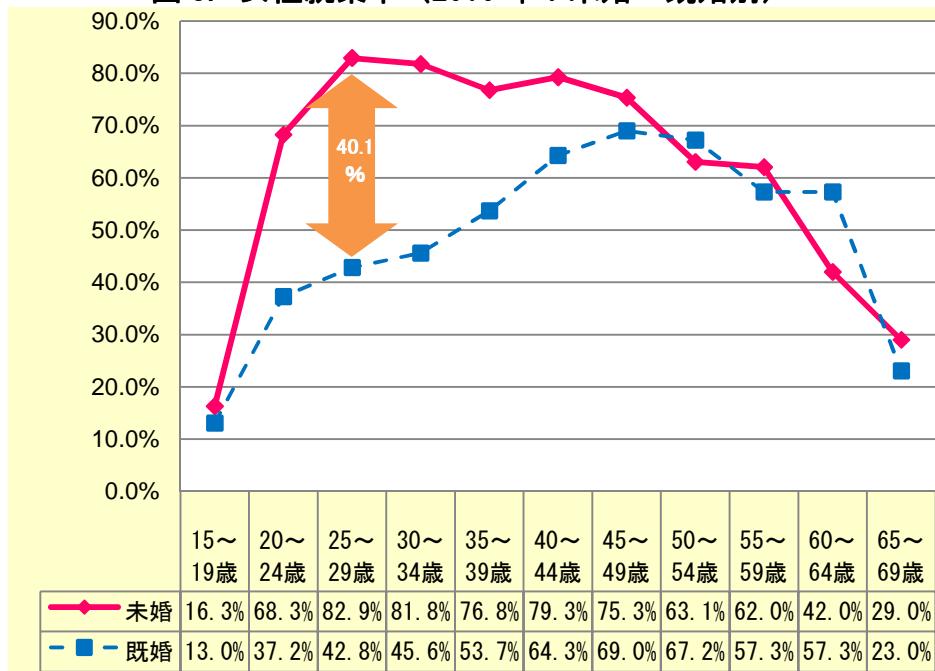
- 小牧市の女性就業率を年齢別にみると、出産・育児期にあたる30代で就業率が減少しており、全国や愛知県と同様、いわゆる「M字カーブ」を描いています。しかし、小牧市の20代後半から30代の女性就業率は、全国や愛知県に比べて、低い値を示しています(図7)。

図7. 女性就業率 (2010年)



- 小牧市における女性就業率を未婚・既婚別で比較してみると、出産・育児期にあたる20代後半から30代前半で大きく乖離がみられます（図8）。

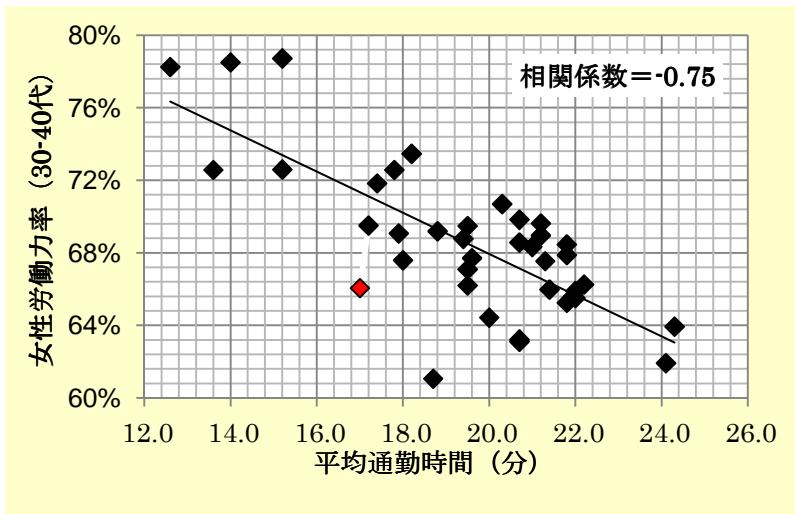
**図8. 女性就業率（2010年：未婚・既婚別）**



出典：国勢調査

- 通勤時間との関係で就業率を見てみると、30代から40代の女性において平均通勤時間の短さと女性労働力率の高さには有意な相関がみられます（図9）。

図9. 通勤時間と就業率の相関



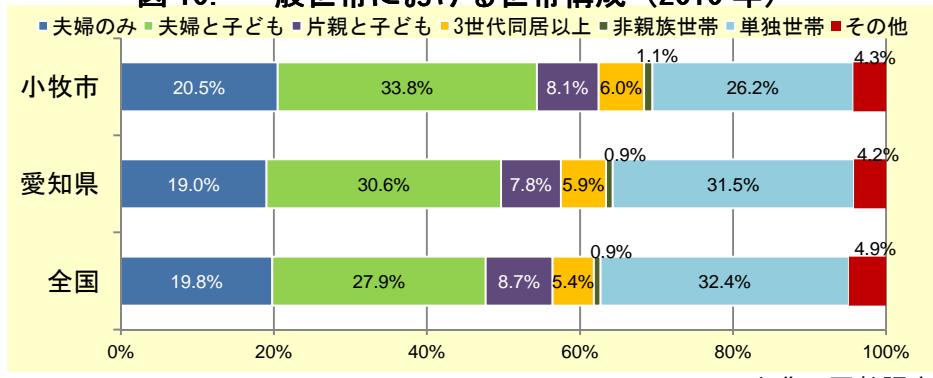
		平均通勤時間(分)	女性労働力率			平均通勤時間(分)	女性労働力率
1	新城市	12.6	78.3%	21	弥富市	20.3	70.7%
2	碧南市	13.6	72.6%	22	江南市	20.7	69.8%
3	田原市	14	78.5%	23	知多市	20.7	68.6%
4	西尾市	15.2	78.7%	24	日進市	20.7	63.2%
5	常滑市	15.2	72.6%	25	刈谷市	20.7	63.1%
6	小牧市	17	66.1%	26	一宮市	21	68.3%
7	津島市	17.2	69.5%	27	稲沢市	21.2	69.6%
8	豊川市	17.4	71.8%	28	北名古屋市	21.2	69.0%
9	蒲郡市	17.8	72.6%	29	清須市	21.3	67.6%
10	半田市	17.9	69.1%	30	大府市	21.4	66.0%
11	東海市	18	67.6%	31	あま市	21.8	68.5%
12	愛西市	18.2	73.5%	32	岩倉市	21.8	67.9%
13	みよし市	18.7	61.1%	33	安城市	21.8	65.3%
14	高浜市	18.8	69.2%	34	尾張旭市	22	65.9%
15	瀬戸市	19.4	68.8%	35	知立市	22	65.5%
16	豊橋市	19.5	69.5%	36	春日井市	22.2	66.3%
17	豊明市	19.5	67.1%	37	長久手市	24.1	61.9%
18	岡崎市	19.5	66.2%	38	名古屋市	24.3	63.9%
19	犬山市	19.6	67.7%				
20	豊田市	20	64.4%				

出典：東洋経済新報社「都市データパック」（2015年版）、  
総務省「住宅・土地統計調査」（2013年）

## (4)世帯構成

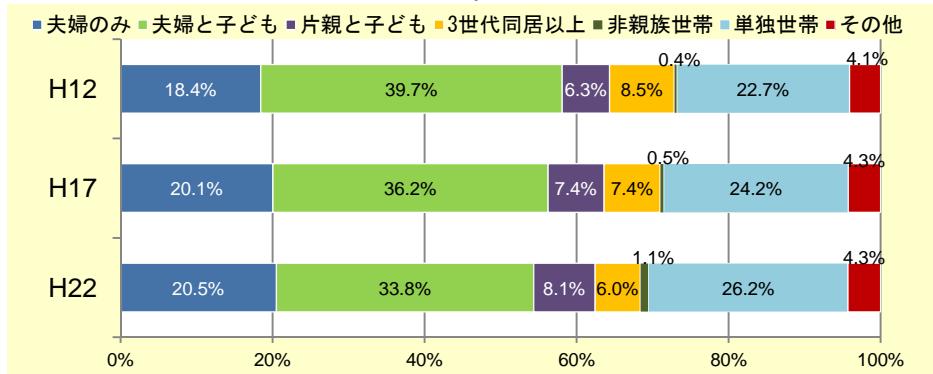
- 小牧市の世帯構成は「夫婦と子ども」世帯が最も多く全体の 33.8%を占め、次いで「単独世帯」の 26.2%、「夫婦のみ」の 20.5%となっています。
- 小牧市の「夫婦と子ども」世帯の割合(33.8%)は、全国(27.9%)や愛知県(30.6%)に比べそれぞれ 5.9 ポイント、3.2 ポイント高い一方、「単独世帯」の割合(26.2%)は、全国(32.4%)や愛知県(31.5%)に比べそれぞれ 6.2 ポイント、5.3 ポイント低い状況です(図 10)。
- 経年でみると、「夫婦と子ども」世帯が減少傾向となっている一方、「夫婦のみ」、「単独世帯」が増加傾向となっています(図 11)。

**図 10. 一般世帯における世帯構成（2010 年）**



出典：国勢調査

**図 11. 小牧市の世帯構成比の経年推移**



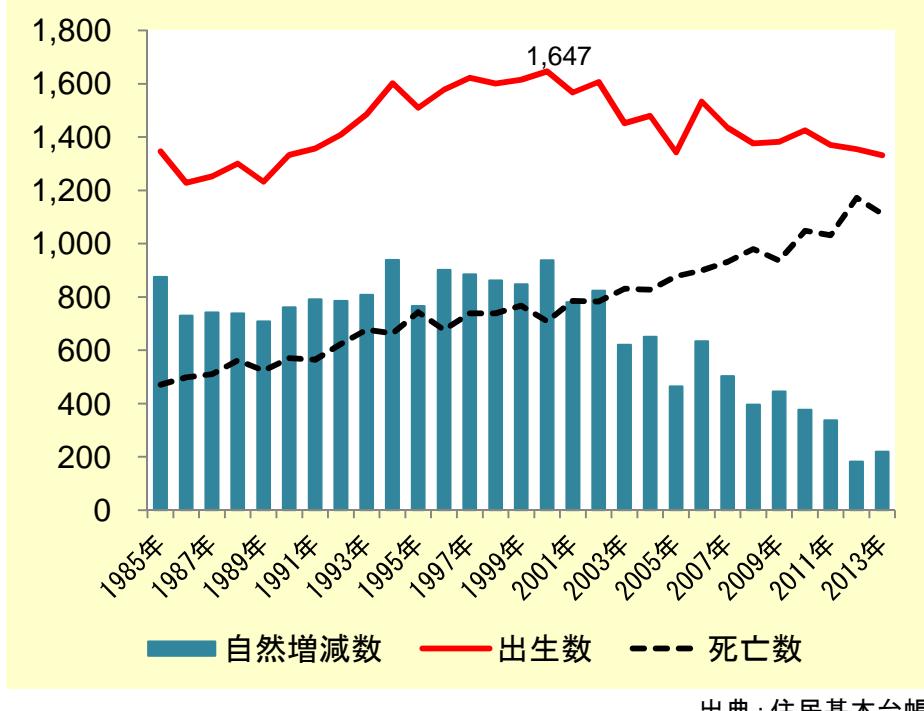
出典：国勢調査

## (5)自然動態

### (ア)自然増減数の推移

- 小牧市の自然動態は、1985年以降一貫して自然増(出生数>死亡数)ですが、出生数が2000年の1,647人をピークに減少傾向となっている一方、死亡数は増加傾向となっています。その結果、自然増を維持しているものの、その増加幅は縮小傾向が続いています(図12)。

図12. 小牧市の自然増減数の推移



出典：住民基本台帳

## (イ)合計特殊出生率の推移

- 小牧市の合計特殊出生率(1.55)は全国(1.38)と比べて0.17ポイント高く、全国的に見て高い水準にある愛知県(1.51)と比べても0.04ポイント高い状況です(図13)。

図13. 全国・愛知県・小牧市の合計特殊出生率(2008-2012)

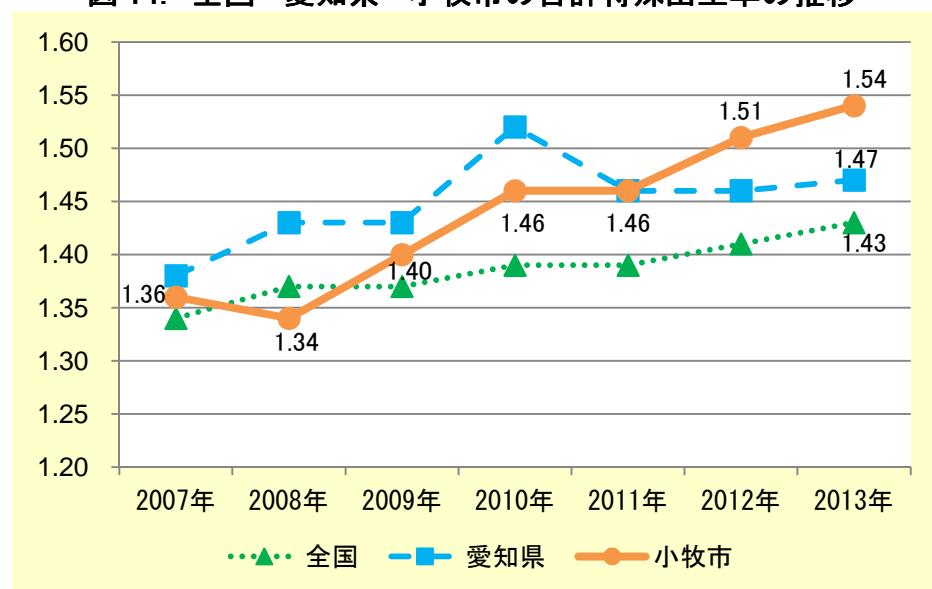


出典：厚生労働省「人口動態保健所・市町村別統計」

- 経年でみると、全国を上回っているものの、愛知県より低い水準で推移していましたが、近年では、愛知県を上回っています(図14)。

※図13は国勢調査の年を中心とした5年間のデータをまとめた公表数値である一方、図14は単年のデータより算出したものであるため、誤差があります。

図14. 全国・愛知県・小牧市の合計特殊出生率の推移

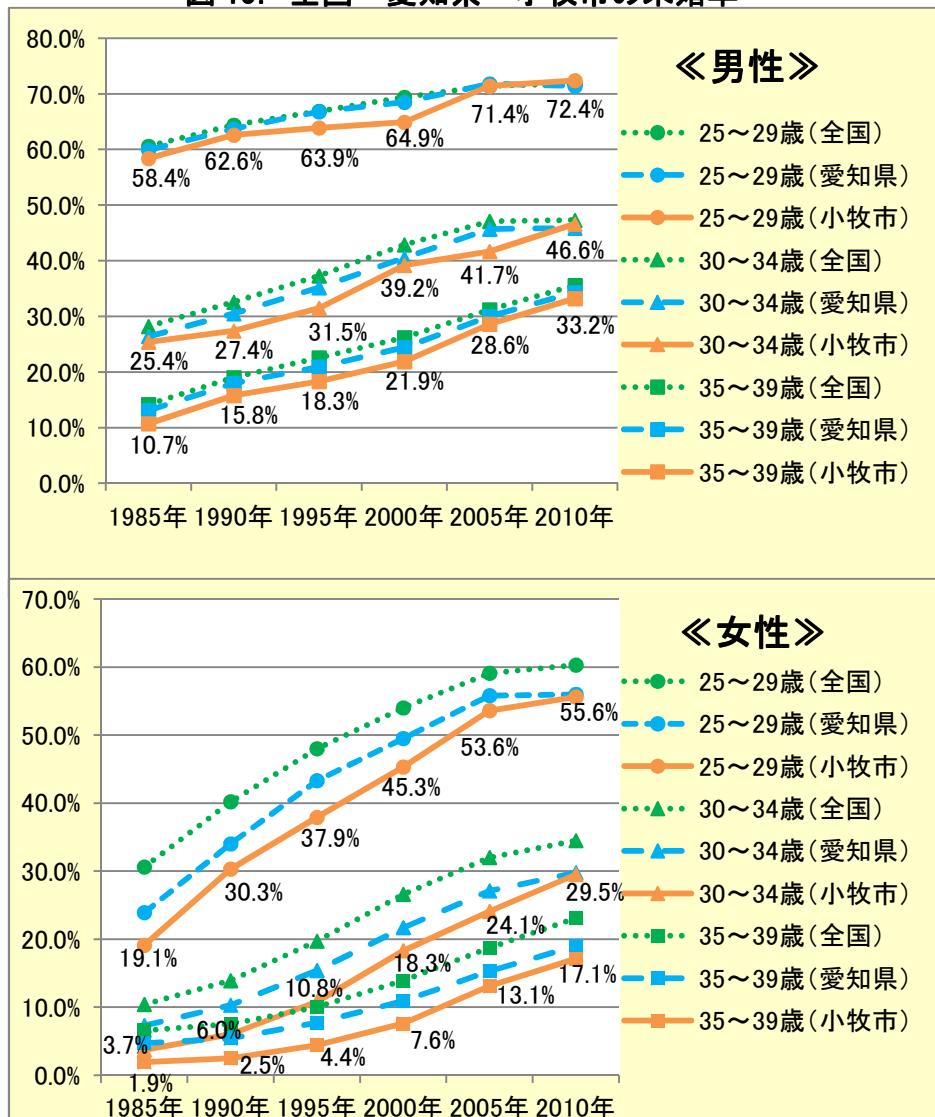


出典：厚生労働省「人口動態調査」

## (ウ)未婚率の推移

- 25～29歳、30～34歳、35～39歳の未婚率は、男女ともに全国や愛知県と比べて低い水準で推移していましたが、近年は、愛知県に近い水準となっており、晩婚化が進行しています（図15）。

図15. 全国・愛知県・小牧市の未婚率

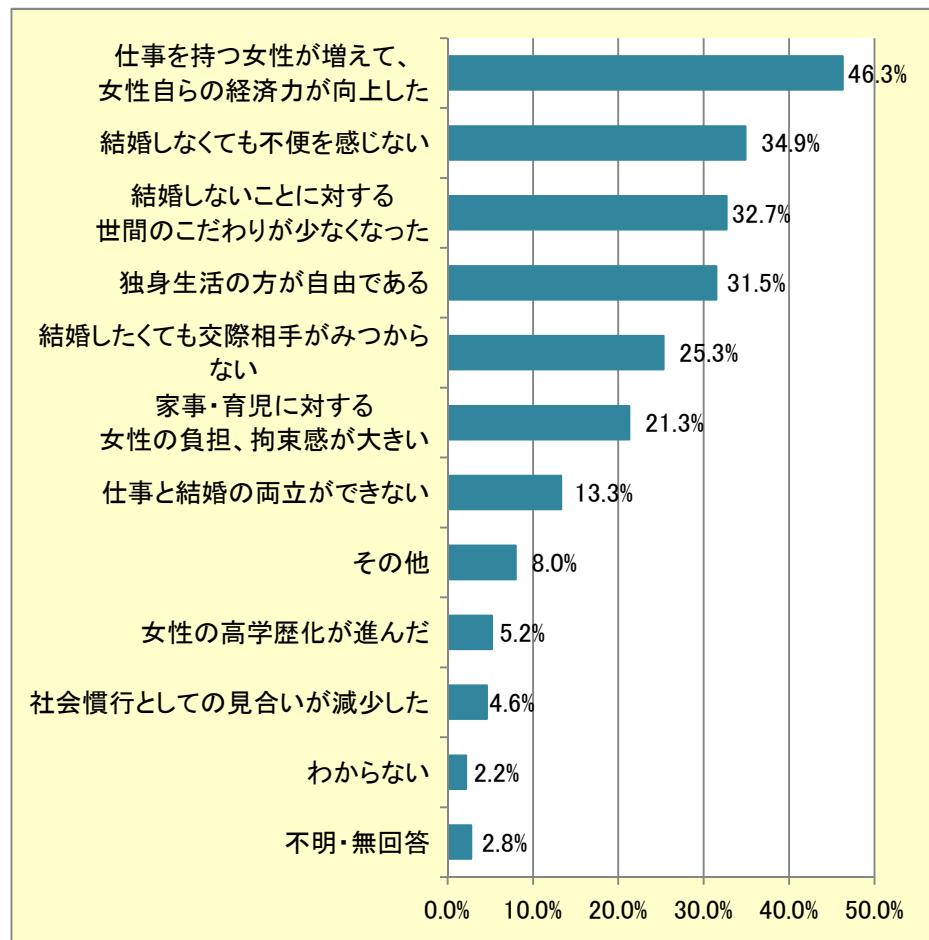


出典：国勢調査

## (工)晩婚化・未婚化に関する意識

- 本市におけるアンケート調査では、「仕事を持つ女性が増えて、女性自らの経済力が向上した」(46.3%)が最も高く、次いで、「結婚しなくても不便を感じない」(34.9%)、「結婚しないことに対する世間のこだわりが少なくなった」(32.7%)、「独身生活の方が自由である」(31.5%)といった項目がある一方、「結婚したくても交際相手がみつからない」(25.3%)といった結婚意思がうかがえる項目も見受けられます(図 16)。

図 16. 晩婚化・未婚化の傾向の理由 (N=324) ※複数回答のうち主な回答

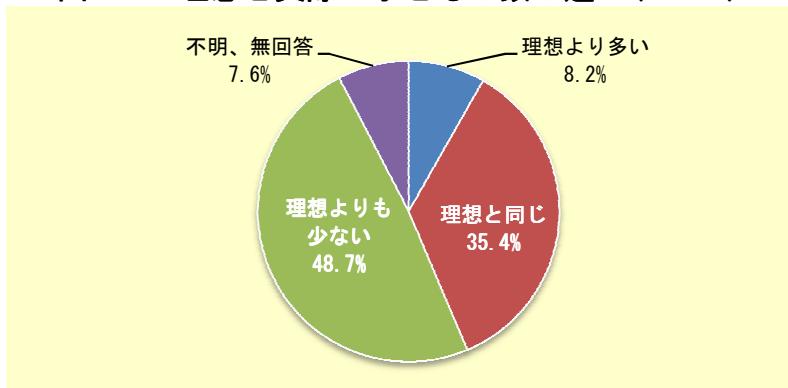


出典：小牧市 H25「子ども・子育てに関するアンケート調査」

## (才)出産に関する意識

- 本市におけるアンケート調査では、48.7%の回答者が「実際の子どもの数は、理想の数よりも少ない」と回答しています(図 17)。

図 17. 理想と実際の子どもの数の違い(N=158)

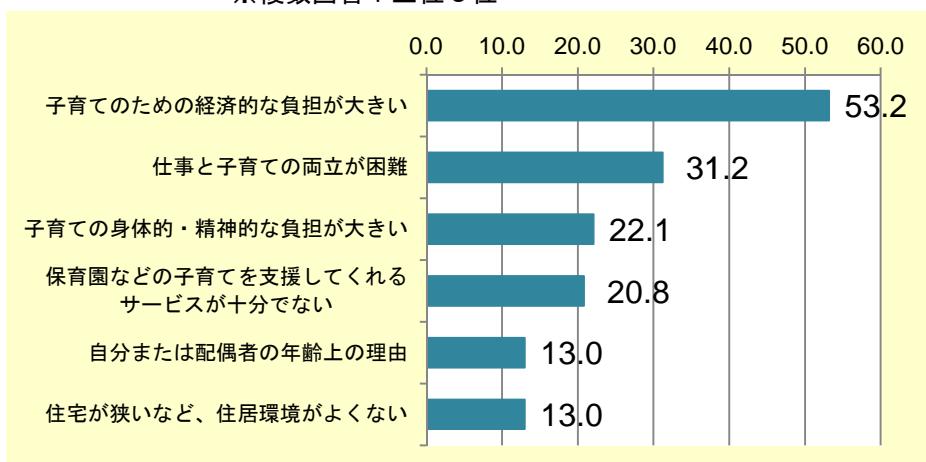


出典：小牧市 H25「子ども・子育てに関するアンケート調査」

- また、理想よりも実際の子どもの数の方が少ない理由について、「子育てのための経済的な負担が大きい」(53.2%)が最も多くなっています(図 18)。

図 18. 理想より子どもの数が少ない理由 (N=77)

※複数回答：上位 5 位



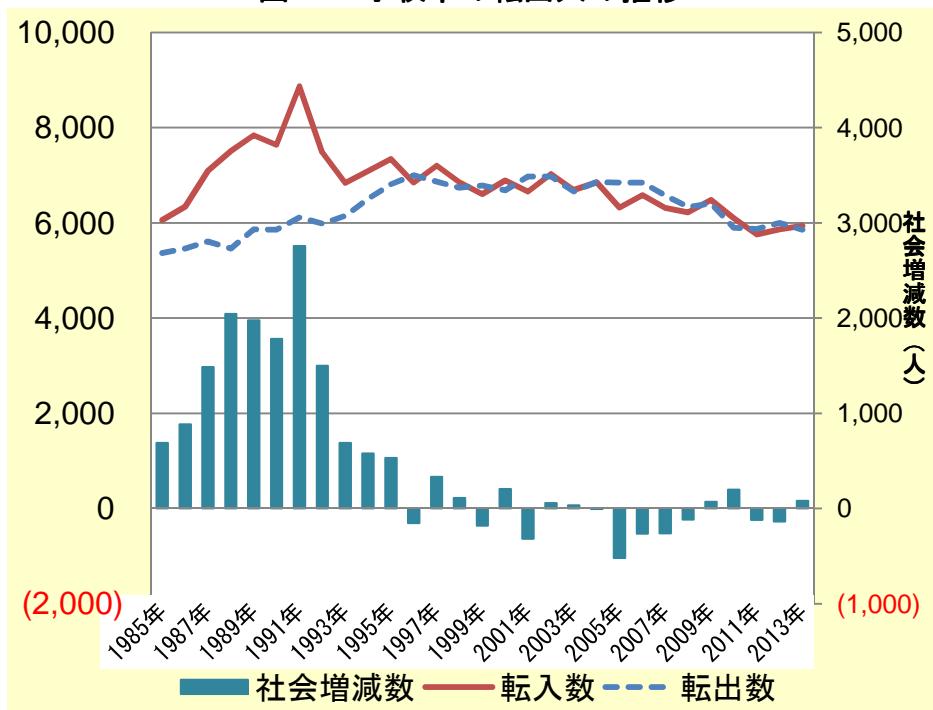
出典：小牧市 H25「子ども・子育てに関するアンケート調査」

## (6)社会動態

### (ア)転出入者数の推移

- 小牧市の社会動態は1995年まで転入超過を保っていましたが、1996年以降、転入・転出がほぼ同数となり、転出超過と転入超過を繰り返し、近年は転出超過の傾向が見られます。転入者数・転出者数は、1985年から2013年に至るまで緩やかに減少しているものの、顕著な変化は見られません(図19)。

図19. 小牧市の転出入の推移



出典：住民基本台帳

- 小牧市の転出入の過去5年推移をみると、転出超過の年が散見されます。転入者数及び転出者数は、2011年に底を打ち、その後緩やかな上昇傾向になっています(図20)。

図20. 転出入の過去5年推移

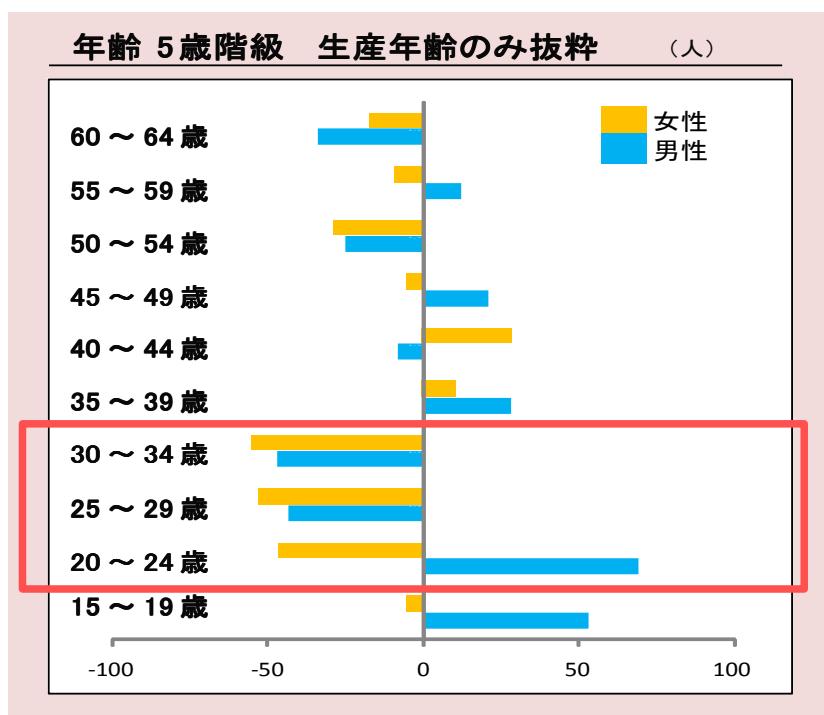


出典：住民基本台帳

## (イ)男女別・年齢階級別の人団移動状況

- 2014年の小牧市における社会動態(外国人を除く。)は転出超過となっています。年齢3区分別にみると、老人人口は転入超過であった一方で、年少人口と生産年齢人口は転出超過でした。特に生産年齢人口の転出超過数が多く、年齢5歳階級で見ると、25～34歳の男性及び20～34歳の女性の転出超過が顕著です(図21)。

図21. 性・年齢階級別の転出超過数・転入超過数(2014年)



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」(2014年)

- ・ 若年世代(20～40歳代)の社会増減を経年でみると、直近過去3年は一貫して転出超過であり、特に、25～29歳の転出超過が顕著です(図22)。

**図22. 20～40歳代の社会増減数(2012～2014年)**

	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	計
H24社会増減数	103	-50	-67	-23	-10	-17	-64
H25社会増減数	141	-157	26	-10	0	-20	-20
H26社会増減数	23	-96	-102	39	21	16	-99

出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

- ・ 転出入者アンケートの結果、男性・女性ともに単身での転入(67.2%)・転出(82.4%)が大多数を占めました(図 23)。
- ・ その理由として、転入・転出とともに就職等・転勤が多い状況です。そのほか、男性・女性ともに20代・30代では結婚による転出が目立っています。

**図 23. 小牧市の転出入者の理由**

転入				主な理由
232		単身		
156 (67.2%)	単身男性	20代	45	就職等(24)、転勤(8)
110 (47.4%)	30代	27	就職等(13)、転勤(7)	
	40代	25	就職等(14)、転勤(6)	
	その他	13		
46 (19.8%)	単身女性	20代	24	就職等(9)、結婚・出産(4)、転勤(3)
	30代	9	就職等(3)、親との同居(2)	
	40代	7	結婚・出産(2)	
	その他	6		
28 (12.1%)	夫婦のみ	20代	14	結婚・出産(8)、親との同居(3)
	30代	9	結婚・出産(3)、住居購入(3)	
	40代	3	就職等(2)	
	その他	2		
20 (8.6%)	夫婦と子	20代	5	親との同居(3)
	30代	6	住居購入(4)	
	40代	3	転勤(3)	
	その他	6		
28 (12.1%)	その他			

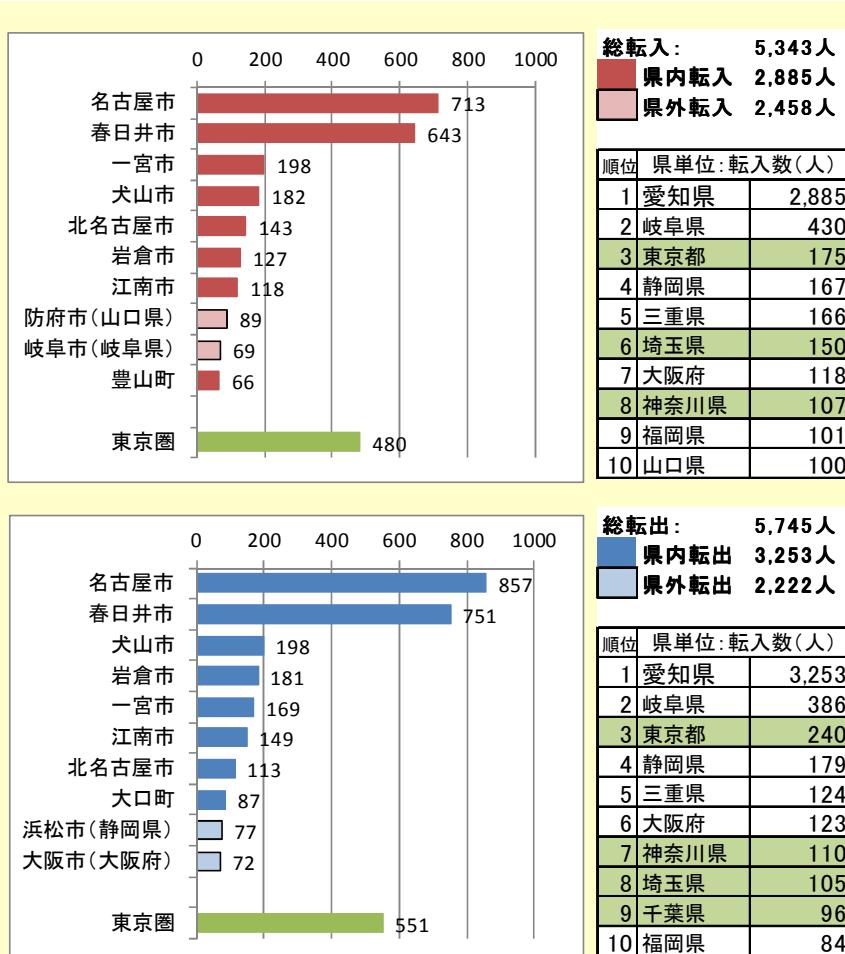
  

転出				主な理由
289		単身		
238 (82.4%)	単身男性	20代	59	就職等(20)、転勤(15)、結婚(11)
142 (49.1%)	30代	42	就職等(14)、結婚(13)、転勤(9)	
	40代	28	就職等(11)、転勤(8)	
	その他	13		
95 (32.9%)	単身女性	20代	53	結婚・出産(23)、就職等(16)、転勤(8)
	30代	26	結婚・出産(13)、転勤(3)	
	40代	6		
	その他	10		
24 (8.3%)	夫婦のみ	20代	3	転勤(2)
	30代	10	住居購入(6)	
	40代	5	就職等(2)	
	その他	6		
20 (6.9%)	夫婦と子	20代	4	転勤(2)
	30代	8	住居購入(5)	
	40代	2		
	その他	6		
28 (9.7%)	その他			

## (ウ)小牧市と他地域間の転出入

- 転入元・転出先としては名古屋市と春日井市が圧倒的に多い状況です。そのほか、県内近隣市町間における転出入による人の行き来がみられます。また、東京圏との間における転出入も多い状況です(図24)。

**図24. 小牧市の転入元及び転出先 (各上位10地域+東京圏)**

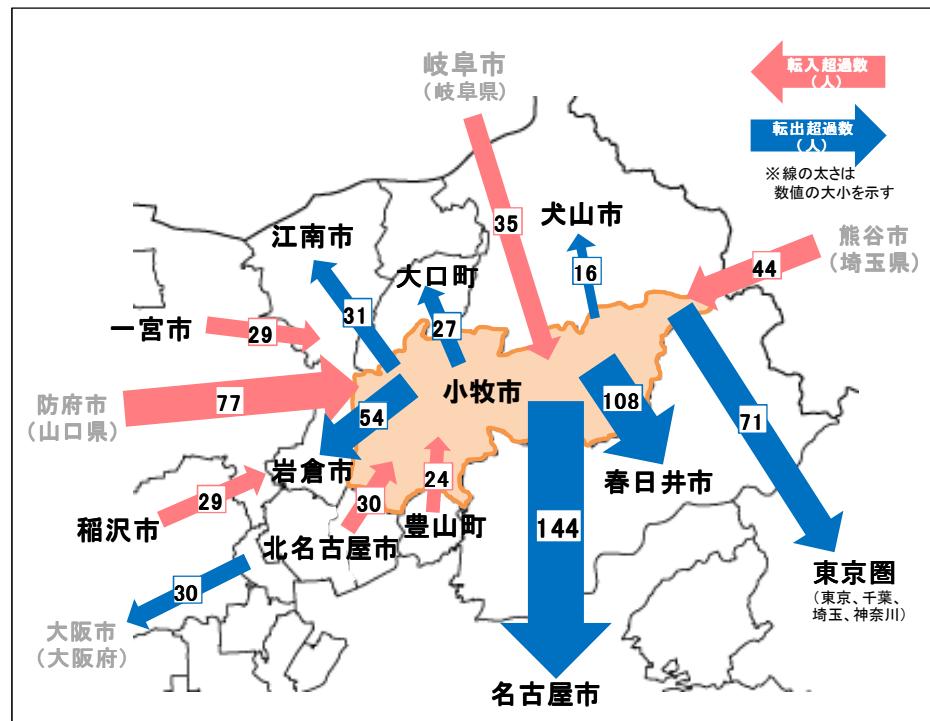


※ 東京圏とは、ここでは東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県の1都3県を指す。

出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」(2014年)

- ・ 転出入の差をみると、近隣では、名古屋市(144人)を筆頭に、春日井市(108人)、岩倉市(54人)などに対して転出超過となっており、また、東京圏(71人)に対しても転出超過となっています。
  - ・ 一方、航空自衛隊基地所在地である山口県防府市(77人)、埼玉県熊谷市(44人)など他県からの転入超過が目立ちます。近隣では岐阜市(35人)、北名古屋市(30人)、一宮市(29人)、稻沢市(29人)などに対して転入超過となっています(図25)。

図 25. 小牧市における転入超過・転出超過の状況（主な地域）



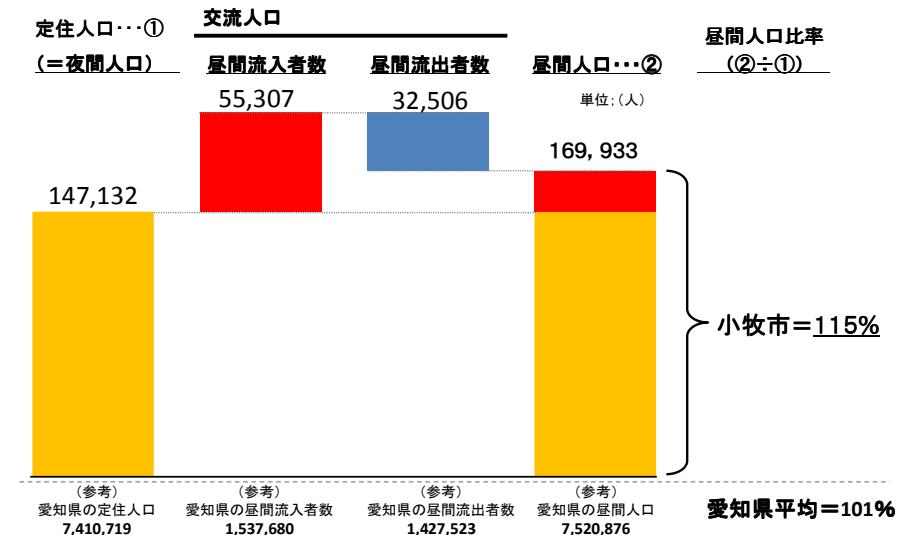
出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」（2014年）

《参考》

2012年				2013年			
転入超過上位5自治体		転出超過上位5自治体		転入超過上位5自治体		転出超過上位5自治体	
1 防府市	59人	1 名古屋市	-118人	1 防府市	86人	1 名古屋市	-52人
2 濱松市	42人	2 江南市	-25人	2 濱松市	49人	2 春日井市	-43人
3 大阪市	37人	3 大口町	-25人	3 熊谷市	43人	3 江南市	-40人
4 熊谷市	26人	4 裾野市	-24人	4 北名古屋市	30人	4 一宮市	-33人
5 春日井市	25人	5 犬山市	-23人	5 岩倉市	29人	5 犬山市	-23人
		東京圏	-36人			東京圏	-82人

- ・ 昼間人口比率は、流入超過により約 115%となっており、小牧市は愛知県平均(101%)よりも 14 ポイント高い状況です(図 26)。

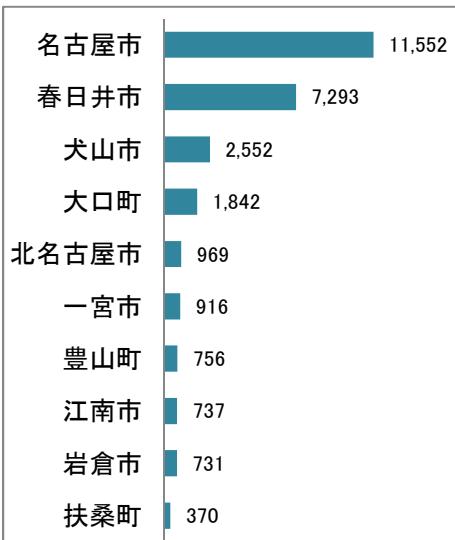
**図 26. 小牧市の昼間人口比率**



**小牧市への昼間流入元 (上位地域)(人)**



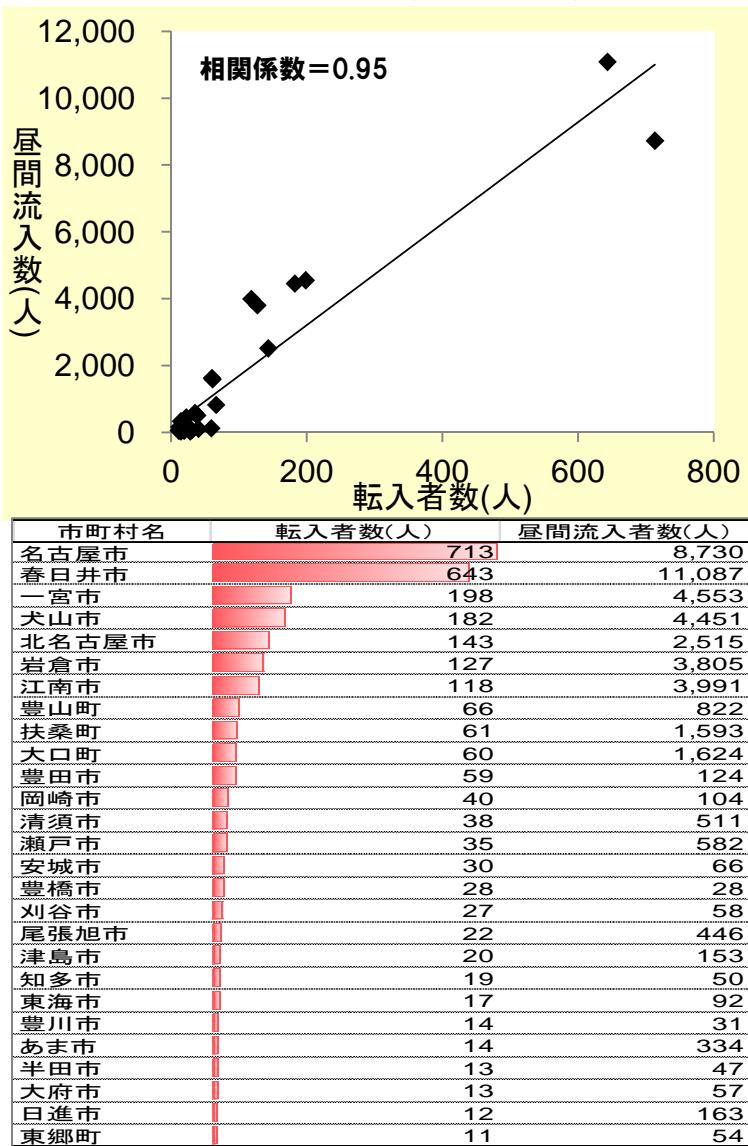
**小牧市からの昼間流出先 (上位地域)**



出典：国勢調査

- 居住地別市内就業者数と小牧市への転入者数の相関を見ると、相関係数 = 0.95 の強い相関がみられます(各点はそれぞれ愛知県内の近隣の市町を示しています)(図 27)。

図 27. 小牧市内就労者数と転入者数の相関

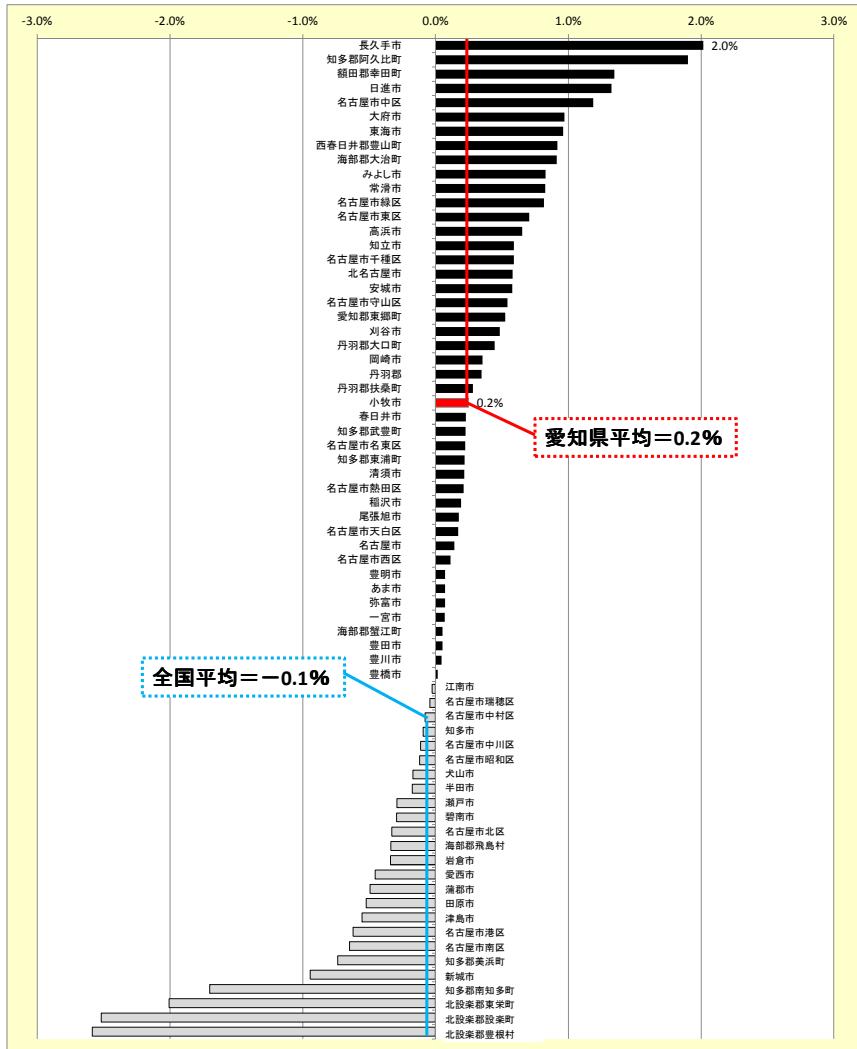


出典：国勢調査、総務省「住民基本台帳人口移動報告」(2014年)

## (7) 愛知県内他市町の人口動向

- 小牧市の人口年平均成長率は0.2%です。これは、全国平均より0.3ポイント高く、愛知県平均と同程度です。一方で、愛知県内においても長久手市や阿久比町など、人口増加を実現している市町が存在します(図28)。

図28. 愛知県内の市町村別人口の年平均成長率(2010-2014年)

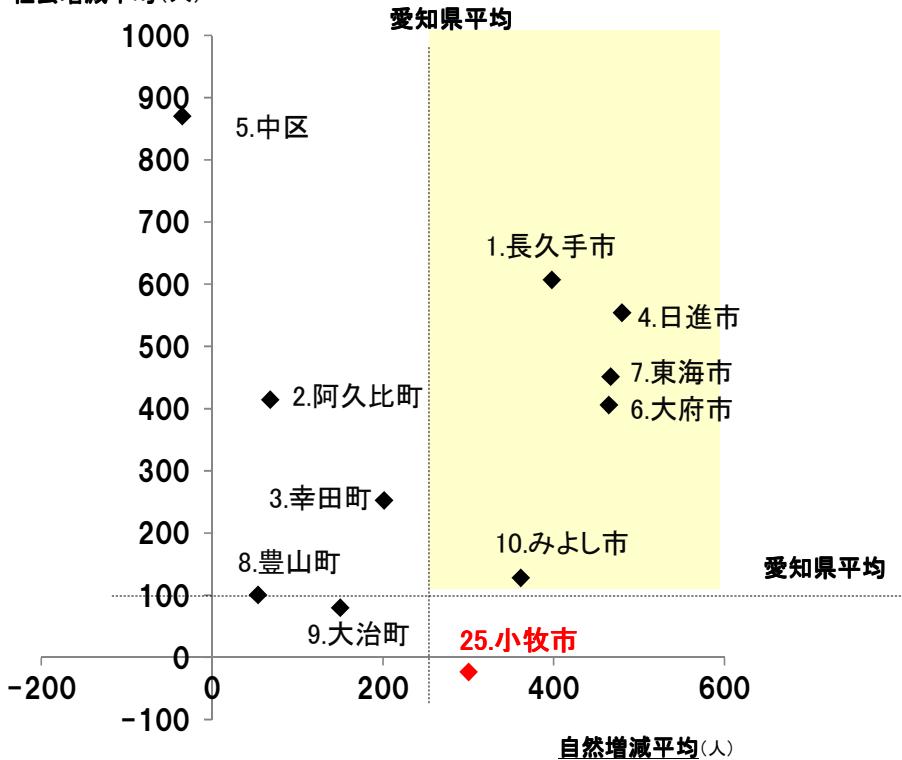


出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」(2010-2014)

- 人口増加をより顕著に実現している市町は、愛知県平均以上の社会増を実現しており、かつ、自然増も愛知県平均以上である傾向です(図29)。

**図29. 人口増減の原因による地域分類(2010-2014 平均)**

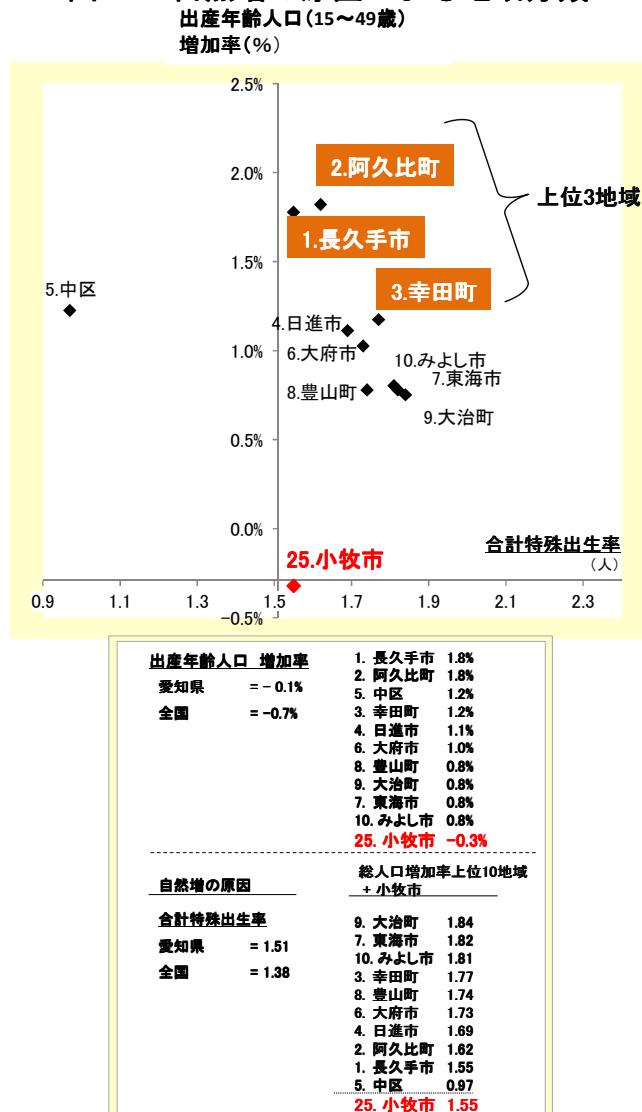
社会増減平均(人)



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」(2010-2014)

- 人口増加をより顕著に実現している市町の自然増には、合計特殊出生率よりも、出産年齢人口の増加が寄与している傾向が強い状況です（図30）。

**図30. 自然増の原因による地域分類**



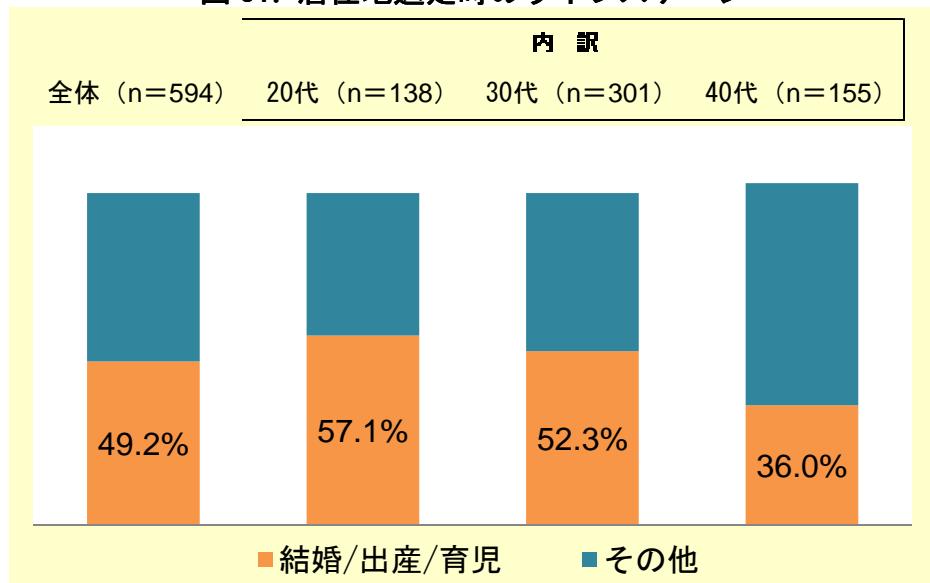
出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」(2010-2014)  
及び厚生労働省「人口動態保健所・市町村別統計」

## 2.人口動向を踏まえた小牧市の強み・弱みと課題

### (1)生活者が居住地に求める要件

- 市町村を超えた居住地選定(変更)時のライフステージについて集計を行った結果(n=594)、20代～30代を中心に「結婚・出産・育児」のライフステージで居住地選定(変更)を行う割合が多く、20代では57.1%、30代では52.3%、全体でも49.2%となっています(図31)。

図31. 居住地選定時のライフステージ



出典：小牧市民および近隣市町の生活者に対する独自調査

- ・ 小牧市と近隣市町の生活者の主な居住地選定要因について集計を行った結果 (n=594)、職場へのアクセスに関する要因(「自家用車」(43.1%)、「電車」(25.6%)、「徒歩/自転車」(18.9%))がいずれも上位でした。また、「実家へのアクセス」(32.1%)や「自分もしくは配偶者の実家があったため」(18.9%)が上位にランクインしています。その他、特に結婚・出産・育児期の居住者の中で上位にランクインしているものとして、「街が閑静で落ち着いている」、「商業施設の充実(日用品)」、「余暇における交通機関の利便性」、「育児環境」、「緑地などの自然の多さ」、「その他の治安」など、育児環境やライフステージに適合した居住環境についての要因が多くみられます(図32)。

**図32. 居住地選定要因**

居住地の選定要因内訳(MA、%)

選定要因	全体 (n = 594)	結婚/出産/育児 (n = 292)	小牧市周辺在住・ 小牧市内就労者 (n = 71)
職場アクセス(自家用車)	43.1%	40.7%	49.4%
実家へのアクセス	32.1%	40.2%	41.5%
家賃・地価	29.5%	31.6%	30.2%
職場アクセス(電車)	25.6%	24.0%	28.6%
職場アクセス(徒歩/自転車)	18.9%	15.7%	3.0%
自分もしくは配偶者の 実家があったため	18.9%	22.8%	16.1%
街が閑静で落ち着いている	14.2%	16.8%	9.4%
商業施設の充実(日用品)	13.3%	14.9%	9.9%
余暇における交通機関の利便性	12.5%	13.6%	16.0%
育児環境	10.4%	14.3%	6.6%
緑地などの自然の多さ	9.0%	10.0%	6.1%
その他の治安	8.8%	7.9%	6.9%
仕事上の理由等、自由に選定 できなかったから	8.1%	8.6%	10.0%
魅力的な住居	7.8%	7.2%	7.1%
街の清潔さ、きれいさ	7.6%	8.2%	5.1%
医療機関の充実	7.2%	8.3%	6.7%
子供の安全性	6.5%	8.0%	6.9%
図書館など、公園やイベント 施設などの人が集う施設の充実	6.5%	6.8%	7.8%
職場アクセス(バス)	4.0%	4.1%	3.1%
街に活気がありにぎわっている	3.7%	3.6%	3.2%
商業施設の充実(レジャー・贅沢品等)	3.5%	3.5%	1.5%
小学校～高校の選択肢の数	3.4%	4.1%	3.9%
保育施設の充実	3.3%	3.2%	5.6%
その他	3.0%	3.9%	2.1%
育児補助金	2.7%	4.1%	0.0%
小学校～高校の教育レベル	1.8%	2.1%	2.2%
出産補助金	1.2%	2.0%	0.0%
大学／研究機関の充実	0.3%	0.0%	0.0%
介護施設の充実	0.1%	0.0%	0.0%

出典：小牧市民および近隣市町の生活者に対する独自調査

## (2)生活者要件に対する小牧市の強みと弱みの整理

- 居住地の選定要件において、生活者が居住地を選定する過程（「居住地候補を想起するタイミング（想起時）」及び「情報収集して居住地を選定するタイミング（選定時）」）における小牧市および近隣市町に抱くイメージと、「居住後」の満足度を集計しました（図33）。
- その結果、小牧市に対しては、「自家用車による職場アクセス」が想起時には57.8%と強いイメージがあるものの、居住後の満足度は28.3%と低下しています。一方、「商業施設の充実（日用品）」「育児環境」「その他の治安」「街が閑静で落ち着いている」「緑地などの自然の多さ」などは想起時にはイメージが弱いものの、情報収集した上での選定時のイメージ、さらに実際に居住した後の満足度に関しては、徐々に数値が増加しています。
- 他市と比較してみると、近年若年層の社会増が顕著である長久手市や日進市は、「職場アクセス」のイメージは小牧市より強くはないものの、「育児環境」「その他の治安」「街が閑静で落ち着いている」「緑地などの自然の多さ」などは、想起段階のイメージが強い傾向があります。

図33. 想起・選定・居住後のイメージの変遷

居住地	タイミング	職場アクセス（電車）	職場アクセス（自家用車）	職場アクセス（徒歩／自転車）	余暇における交通機関の利便性	商業施設の充実（日用品）	育児環境	その他の治安	街が閑静で落ち着いている	緑地などの自然の多さ	家賃・地価
小牧市	想起時	13.3%	57.8%	10.8%	7.2%	10.8%	6.0%	0.0%	3.6%	3.6%	12.0%
	選定時	12.7%	42.3%	19.7%	11.3%	14.1%	15.5%	11.3%	9.9%	7.0%	35.2%
	居住後	4.8%	28.3%	16.0%	9.1%	25.7%	26.7%	12.8%	16.0%	24.6%	13.4%
長久手市	想起時	16.7%	35.7%	9.5%	14.3%	21.4%	11.9%	4.8%	19.0%	31.0%	23.8%
	選定時	17.4%	43.5%	21.7%	13.0%	30.4%	26.1%	8.7%	21.7%	26.1%	26.1%
	居住後	17.4%	30.4%	13.0%	17.4%	43.5%	30.4%	21.7%	47.8%	43.5%	8.7%
日進市	想起時	9.7%	35.5%	12.9%	16.1%	9.7%	16.1%	6.5%	16.1%	19.4%	16.1%
	選定時	23.8%	38.1%	14.3%	9.5%	9.5%	14.3%	19.0%	19.0%	19.0%	19.0%
	居住後	17.4%	34.8%	17.4%	4.3%	13.0%	4.3%	8.7%	30.4%	34.8%	13.0%
春日井市	想起時	25.9%	43.4%	9.8%	11.2%	10.5%	7.0%	6.3%	11.2%	8.4%	17.5%
	選定時	26.9%	50.0%	15.4%	8.7%	14.4%	5.8%	8.7%	11.5%	6.7%	26.9%
	居住後	17.0%	39.3%	8.9%	8.9%	27.7%	16.1%	9.8%	24.1%	20.5%	11.6%
犬山市	想起時	17.8%	37.8%	17.8%	6.7%	4.4%	8.9%	6.7%	15.6%	20.0%	28.9%
	選定時	16.0%	68.0%	20.0%	16.0%	4.0%	16.0%	8.0%	36.0%	36.0%	44.0%
	居住後	17.2%	51.7%	24.1%	13.8%	6.9%	13.8%	27.6%	41.4%	37.9%	34.5%

出典：小牧市民および近隣市町の生活者に対する独自調査

- 居住地選定要件として先述した「職場アクセス」、「ライフステージに適合した居住環境」、「育児環境」に関する項目に対して生活者が持つイメージ及び満足度を、小牧市と他市町の中央値で比較しました（図34）。
- 想起時のイメージにおいて、小牧市の「自家用車による職場アクセス」、「育児補助金」のイメージが他市町中央値を上回っており、「その他の治安」のイメージが下回っています。一方、居住者の満足度において、「医療機関の充実」、「育児補助金」、「育児環境」が他市町中央値を上回っており、「電車での職場アクセス」が下回っています。また、「医療機関の充実」、「子供の安全性」、「商業施設の充実」、「その他の治安」、「育児環境」について、居住前の想起時イメージに比べて居住後の満足度が大幅に上がっています。

**図34. 想起時のイメージと居住者の満足度のギャップ**

生活者要件	想起時のイメージ		居住者の満足度		居住前後のギャップ (イメージ満足度)
	小牧市	近隣市町村* 全体の中央値(A) ±IQR** (B)	小牧市	近隣市町村* 全体の中央値(A) ±IQR** (B)	
<b>職場アクセス</b> (柔軟な働き方への対応)					
・自家用車	強み***	> (A) + (B)	弱み***	< (A) - (B)	
	56.3 %	37.5 ± 10.5 %	28.3 %	31.6 ± 11.3 %	28.0 %
・電車		14.5 %	26.3 ± 20.4 %	4.8 %	17.6 ± 8.2 %
・徒歩/自転車		11.3 %	10.6 ± 9.4 %	16.0 %	15.4 ± 10.5 %
・バス		2.4 %	2.4 ± 6.4 %	2.1 %	2.5 ± 4.1 %
<b>ライフステージに適合した居住環境</b>					
・家賃・地価		11.8 %	15.0 ± 15.6 %	13.4 %	13.2 ± 17.1 %
・医療機関の充実		5.3 %	5.3 ± 7.3 %	27.8 %	14.7 ± 12.4 %
・子供の安全性		1.1 %	5.5 ± 7.6 %	13.4 %	8.8 ± 7.9 %
・商業施設の充実		10.9 %	10.6 ± 5.9 %	25.7 %	21.3 ± 14.4 %
・魅力的住居		2.4 %	2.4 ± 2.0 %	5.9 %	5.8 ± 9.1 %
・その他の治安		0.0 %	6.4 ± 3.9 %	12.8 %	11.7 ± 7.6 %
<b>育児環境の整備</b>					
・保育施設の充実		6.7 %	3.6 ± 4.7 %	9.1 %	5.6 ± 7.1 %
・育児補助金		10.3 %	3.6 ± 2.2 %	16.0 %	4.4 ± 10.9 %
・出産補助金		2.7 %	2.7 ± 3.3 %	7.5 %	3.3 ± 6.9 %
・育児環境		6.0 %	8.2 ± 3.6 %	26.7 %	12.8 ± 12.4 %

\*人口ビジョン策定のために小牧市独自に実施したアンケートの対象市町

\*\*四分位範囲(Interquartile Range); 一般に、分布の代表値として平均値の代わりに中央値を使うときは、IQRを標準偏差や分散の代わりに使う。今回はIQRを超える値は統計的に有意であると判断した。

\*\*\*小牧市の値が中央値からIQR以上の差がある要件を小牧市の強みとした。

**出典：小牧市民および近隣市町の生活者に対する独自調査**

・ 小牧市が市民に提供しているインフラやサービスについて、他市との比較が可能なデータを中心に整理しました(図35)。「職場アクセス」は、やはり他市と比べても実際に良いことがわかりました。また、「大型店舗密度」や「3人目の子供の保育料無償化」など、育児やライフステージに適合した環境が充実していることがわかりました。一方で、「刑法犯罪認知件数」や「待機児童数」は他市と比べて多い状況です。

**図35. 小牧市の施設・施策の実情**

生活者要件	施策・施設の 現状評価		愛知県他市 <sup>*4</sup> の 中央値±IQR
	小牧市		
<b>職場 アクセス (柔軟な 働き方へ の対応)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職場アクセス利便性<sup>*1</sup></li> </ul>	76	64 ± 38
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職場アクセス時間</li> </ul>	17.0 分	19.8 ± 3.6 分
<b>ライフステ ージに 適合した 居住環境</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大型店舗密度<sup>*2</sup></li> </ul>	0.50 店/km <sup>2</sup>	0.33 ± 0.29 店/km <sup>2</sup>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住宅地地価</li> </ul>	825 百円	783 ± 352 百円
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 刑法犯罪認知件数</li> </ul>	234 件/万人	179 ± 58 件/万人
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院数</li> </ul>	6.0 施設/万人	6.7 ± 1.5 施設/万人
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院密度</li> </ul>	1.6 施設/km <sup>2</sup>	1.6 ± 1.0 施設/km <sup>2</sup>
<b>育児環境 の 整備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 月額保育料</li> </ul>	43,800 円	45,250 ± 7,075 円
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 待機児童数</li> </ul>	3.3 人/万人	0.0 人/万人
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3人目保育料無償化</li> </ul>	あり	- <sup>*3</sup>

\*1 (市内事業所数 / 居住可能面積) ×30~40 代女性労働率

\*2 該当設数 / 居住可能面積

\*3 他市における本施策実施情報が得られなかったため、比較評価は行っていない

\*4 生活者に対する独自調査を行った近隣市町

出典：東洋経済新報社「都市データパック」(2015年版)

### 3.人口の将来展望

---

#### (1)目指すべき将来の方向

##### (ア)現状と課題の整理

- ・ 小牧市の人団は過去より増加傾向を維持してきましたが、その傾向にも陰りが見え始めています。高齢化の進行度に関しては全国や愛知県に比べれば深刻ではありませんが、『年少人口は一貫して減少傾向である点』、『生産年齢人口が近年減少傾向である点』、『老人人口は一貫して増加傾向である点』を鑑みると、少子高齢化は更に進行することが予想されます。
- ・ 小牧市の人団性比は、全国や愛知県に比べて、生産年齢人口・老人人口の女性割合が低い状況です。これは、全国的にみて製造業や運輸業の特化係数が高いという小牧市の産業構造と密接な関連があると考えられます。
- ・ 女性の就業率は、全国や愛知県と同様です。また、既婚女性就業率と未婚女性就業率とを比べると、特に出産・育児期にあたる20代後半から30代前半で大きく乖離がみられます。これは、結婚・出産による女性の離職について依然として課題が残っていることがうかがえます。
- ・ 世帯構成は、全国と比べて「子どもを持つ世帯」が多く「単身世帯」が少ない状況です。しかし、経年でみると子どもを持つ世帯が減少しており、「夫婦のみ」、「単独世帯」が増加しています。

- ・ 小牧市の人団は自然増であるものの、出生数が年々減少傾向となっている一方、死亡数が年々増加しているため、増加数は縮小傾向です。合計特殊出生率は1.55と全国的にも高い水準であるが、人口置換水準=2.07と比べると低い状況です。また、アンケート調査では、約5割が実際の子どもの数が理想の数より少なく、その理由として、経済的な理由が多くなっています。
- ・ 25～39歳の未婚率は、男女ともに全国や愛知県と比べて低い水準で推移してきましたが、近年は、愛知県に近い水準となっており、晩婚化が進行しています。
- ・ 小牧市の社会増減の最も顕著な特徴は、1991年前後の急激な転入超過です。この上振れは、桃花台ニュータウン開発による影響であると推察されます。1996年以降は転入・転出ともにほぼ同数値で横ばいですが、近年では転出超過の傾向が見られ、特に生産年齢人口の転出超過が深刻であるとともに、20代、30代の女性が結婚・出産のタイミングに転出していく傾向が多く自然増への影響は大きいと考えられます。
- ・ 小牧市と他市町との間での人口の行き来を見ると、大きく分けて、近隣市町との間の転出入と、転勤と思われる県をまたいだ転出入があります。特に、近隣市町との間の転入に関しては、転入者数と小牧市内就労者数の間に強い相関がみられることから、小牧市内就労者によるものが多いと推測されます。
- ・ 小牧市の人団増減は県内他市町に比べて平均的です。一方で、人口増加がより顕著な近隣市町も存在しています。小牧市の合計特殊出生率はそれらの市町とほぼ同水準である一方、社会増、特に生産年齢人口の増加率がそれらの市町に比べて低く、結果として、生産年齢人口の社会増が自然増に強い影響を与えると考えられます。

- ・ 生活者が居住地に求める要件は「職場へのアクセス」、「ライフステージに適合した居住環境」、「よりよい育児環境（特に結婚・出産・育児期の居住者にとって）」の3点に整理できます。「職場へのアクセス」は生活者の大部分が居住地に求める必要条件であり、「ライフステージに適合した居住環境」と「よりよい育児環境」は、特に結婚・出産・育児世代が求める十分条件です。また、結婚・出産・育児世代は、自分もしくは配偶者の実家へのアクセスを居住地に求める傾向が強いことから、出産・育児面のサポートの必要性が背景にあると推測されます。
- ・ 小牧市は、「職場アクセス」や「大型店舗密度」、「3人目の子供の保育料無償化」など、育児やライフステージに適合した居住環境が充実しており、そのため、「医療機関の充実」、「子供の安全性」、「商業施設の充実」、「その他の治安」、「育児環境」について居住者の満足度は高い一方、これらの項目に対する居住前の想起時イメージは弱い状況です。つまり、小牧市は、職場アクセスに加えて居住環境や育児環境が充実しているにもかかわらず、その良さが今後居住地を変える意向をもっている近隣市町の生活者に伝わっていないことがうかがえます。

#### (イ)目指すべき将来の方向

- ・ これまでの分析を踏まえて、人口減少の克服に向けた目指すべき将来の方向を以下のとおり設定します。
  - 多くの企業が立地する小牧市ならではの強みを活かす
  - 若年世代の仕事と子育ての両立を支援し、ライフステージに適合した居住環境を提供する
  - 小牧市の魅力を小牧市民及び近隣市町の生活者に伝える

## (2)人口の将来展望

- ・ 国立社会保障・人口問題研究所の推計モデルに準拠し、2つのシナリオに基づく本市の将来人口を2060年まで推計しました(図36)。

### 【シナリオ1】人口減少克服に向けた施策を実施しなかった場合(以下の前提における推計)

前提1:小牧市住民基本台帳の数値(2010年10月1日現在の男女別年齢5歳階級人口)を基に推計。

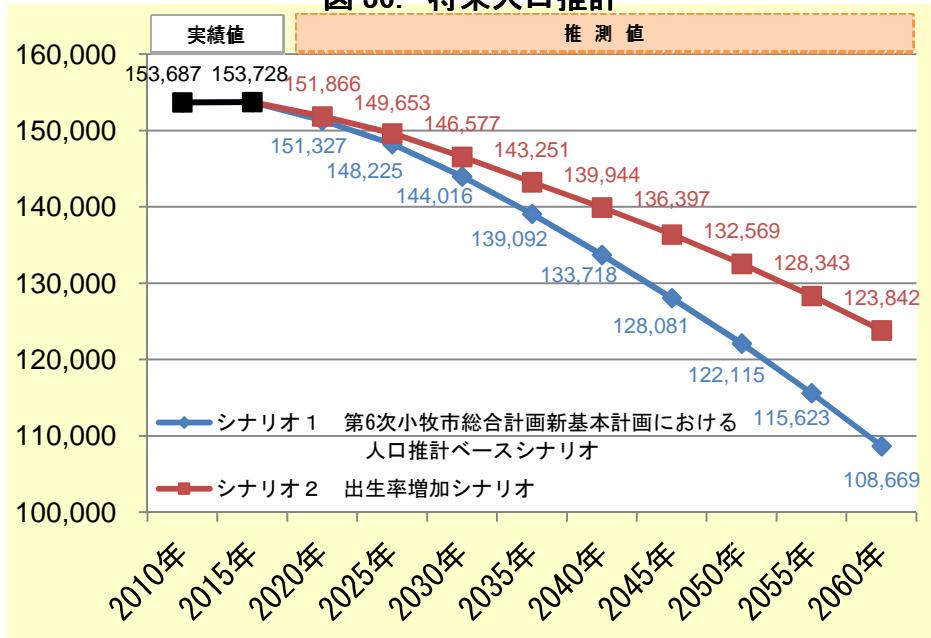
前提2:諸変数(合計特殊出生率、純移動率等)は国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠し、2015年の人口は2015年10月1日現在の実績値を採用。

### 【シナリオ2】目指すべき将来の方向に沿った今後の施策の効果が現れた場合(シナリオ1に、以下の仮定を加えた推計)

仮定:合計特殊出生率が、1.55(2010年)、1.80(2030年)、2.07(2040-2060年)と段階的に向上。

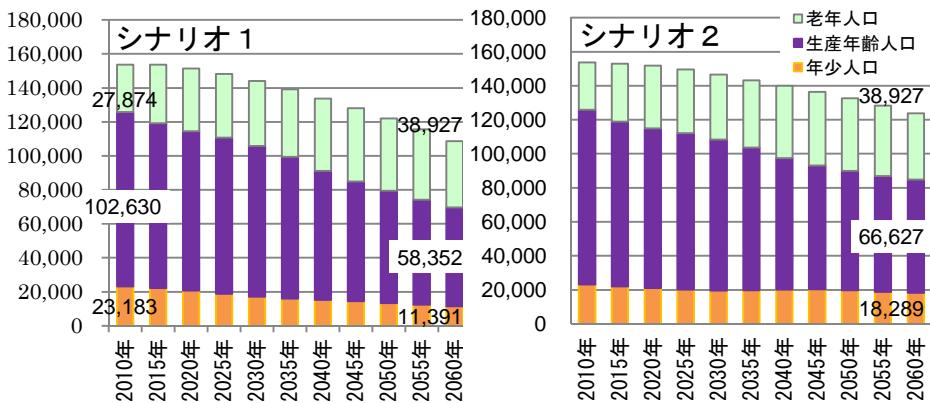
- ・ その結果、2010年には153,687人である人口が、シナリオ1では2060年には108,669人となる推計である一方、シナリオ2では2060年には123,842人となる推計です。

図36. 将来人口推計



- 年齢3区分別で見てみると、シナリオ1においては、老人人口は2010年の18.1%が2060年には35.8%になると推計され、年少人口は2010年の15.1%が2060年には10.5%になると推計されます。一方、シナリオ2においては、老人人口は2060年には31.4%になると推計され、年少人口は2030年あたりに減少から増加に転じ、2060年には14.8%と2010年に比べてほぼ横ばいになると推計されます(図37)。

**図37. 年齢3区分別 将来人口推計**



	実績値		推計値									
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	
シナリオ1	総人口	153,687	153,728	151,327	148,225	144,016	139,092	133,718	128,081	122,115	115,623	108,669
	老人人口	27,874	34,494	36,846	37,593	38,198	39,676	42,531	43,181	42,570	41,458	38,927
	構成比	18.1%	22.4%	24.3%	25.4%	26.5%	28.5%	31.8%	33.7%	34.9%	35.9%	35.8%
	生産年齢人口	102,630	97,143	93,900	91,870	88,752	83,368	75,898	70,471	66,164	61,828	58,352
	構成比	66.8%	63.2%	62.1%	62.0%	61.6%	59.9%	56.8%	55.0%	54.2%	53.5%	53.7%
	年少人口	23,183	22,091	20,581	18,762	17,066	16,048	15,289	14,428	13,382	12,336	11,391
シナリオ2	構成比	15.1%	14.4%	13.6%	12.7%	11.9%	11.5%	11.4%	11.3%	11.0%	10.7%	10.5%
	総人口	153,687	153,728	151,866	149,653	146,577	143,251	139,944	136,397	132,569	128,343	123,842
	老人人口	27,874	34,494	36,846	37,593	38,198	39,676	42,531	43,181	42,570	41,458	38,927
	構成比	18.1%	22.4%	24.3%	25.1%	26.1%	27.7%	30.4%	31.7%	32.1%	32.3%	31.4%
	生産年齢人口	102,630	97,143	93,900	91,870	88,777	83,875	77,271	72,988	70,292	68,017	66,627
	構成比	66.8%	63.2%	61.8%	61.4%	60.6%	58.6%	55.2%	53.5%	53.0%	53.0%	53.8%
シナリオ2	年少人口	23,183	22,091	21,120	20,191	19,601	19,701	20,141	20,228	19,708	18,868	18,289
	構成比	15.1%	14.4%	13.9%	13.5%	13.4%	13.8%	14.4%	14.8%	14.9%	14.7%	14.8%

- 以上のことから、今後、目指すべき将来の方向に沿った施策を展開することによって、シナリオ2を目指し、本市の人口減少を克服していくこととします。



# 総合戦略



# 1. 基本目標及び諸計画との関係

---

## (1) 人口ビジョンを踏まえた基本目標

- ・ 人口ビジョンにて考察したとおり、本市における課題は、転入数・転出数ともにほぼ横ばいであるものの、生産年齢人口の転出超過が顕著であり、少子高齢化の進行が予測されていることです。
- ・ 出産・育児期にあたる20代後半から30代前半の女性就業率は全国や愛知県より低く、結婚・出産による女性の離職について依然として課題が残っていることがうかがえます。また、20代、30代の女性が結婚・出産のタイミングにおいて転出していく等、転出超過の傾向があり、出生数への影響が懸念されます。
- ・ 生活者が居住地に求める要件は「職場へのアクセス」、「ライフステージに適合した居住環境」、「よりよい育児環境（特に結婚・出産・育児期の居住者にとって）」であることが調査により明らかになりましたが、本市は、それらが充実しており、市民の満足度が高いにもかかわらず、その良さが近隣市町の居住者には浸透していないことがわかりました。
- ・ そこで、これらの課題を解決し、人口減少克服を達成するために、人口ビジョンにおいて3つの目指すべき将来の方向を設定しました。
  - 多くの企業が立地する小牧市ならではの強みを活かす
  - 若年世代の仕事と子育ての両立を支援し、ライフステージに適合した居住環境を提供する
  - 小牧市の魅力を小牧市民及び近隣市町の生活者に伝える

- ・ 目指すべき将来の方向を踏まえ、また、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」や県の「愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案しつつ、次の4つの基本目標を定めました。

-----  
| 基本目標1

持続して発展を続ける産業・経済の確立による雇用の確保・創出

| 基本目標2

若年世代の希望がかなう結婚・出産・子育て環境の整備  
(こども夢・チャレンジ No.1 都市の実現)

| 基本目標3

都市の活力と暮らしの安心の創造

| 基本目標4

訪れたくなる、住みたくなる小牧の魅力発信

## (2)まち・ひと・しごと創生に向けた政策5原則

- ・ 国の政策5原則(自立性・将来性・地域性・直接性・結果重視)を踏まえ、施策を効果的に推進していきます。

### ➤ 自立性

一過性の施策ではなく、国の支援がなくとも事業が継続し、本市の自立につながる施策を開発します。

### ➤ 将来性

次代の地域を担うこどもたちの夢を育み、夢へのチャレンジを応援する取組みをはじめ、将来に向かって前向きな施策を開発します。

### ➤ 地域性

人口ビジョンで明らかになった本市の地域特性を踏まえた施策を開発します。

### ➤ 直接性

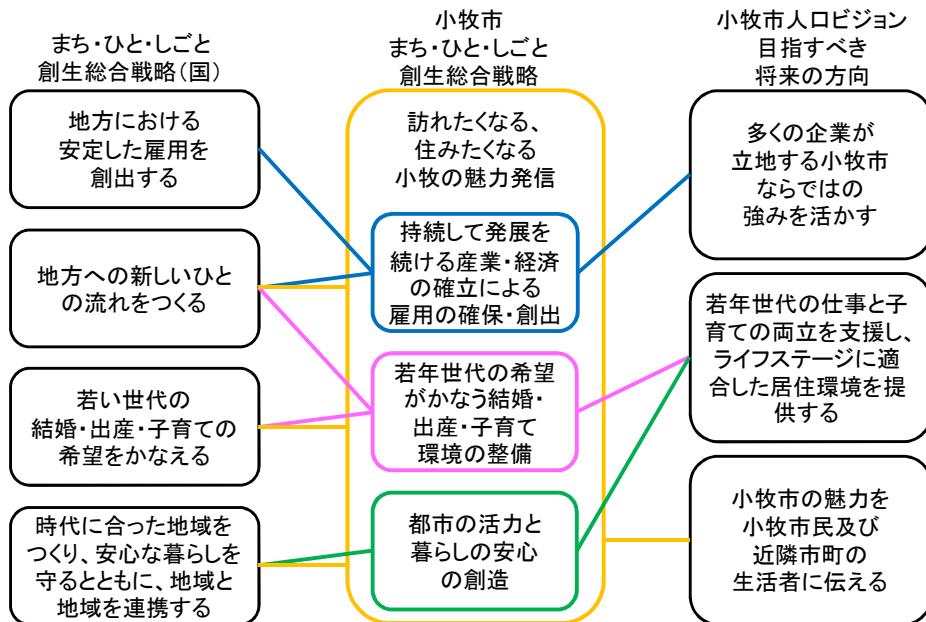
限られた財源の中で、人口減少克服や地方創生の実現に向け、最大限の効果を上げることができる施策を開発します。

### ➤ 結果重視

各施策に重要業績評価指標(KPI)を設定し、PDCAサイクルのもと、検証・改善できる仕組みを導入します。

### (3) 国のまち・ひと・しごと創生総合戦略との関係

- 国「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案するとともに、人口ビジョンにおいて明らかになった本市の地域特性を踏まえた施策を開発し、人口減少の克服や地方創生に取り組みます。



## (4) 第6次小牧市総合計画新基本計画及び 小牧市地域ブランド戦略<sup>\*</sup>との関係

- 「小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、7つの分野からなる行政全般を網羅した「第6次小牧市総合計画新基本計画」のうち、人口減少克服や地方創生につながる施策をとりまとめた計画です。
- また、『住みつづけたいと思うまち』を目指したイメージ戦略である「小牧市地域ブランド戦略」の要素も取り入れます。



## (5) 進行管理

- 「小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の進行管理については、Plan(計画)、Do(実行)、Check(分析・評価)、Act(改善・改革)のマネジメントサイクル(PDCAサイクル)を確立する必要があります。そのため、有識者等からなる推進組織を設置し、各基本目標及び施策において設定した数値目標や重要業績評価指標(KPI)の達成状況についての検証を行うとともに、必要に応じて施策の見直しを行うなど、総合戦略を推進していきます。

\* 本文中に「\*」が付してある用語は、巻末に用語解説があります。

## 2.基本目標における基本的方向と具体的施策

### **基本目標 1**

**持続して発展を続ける産業・経済の確立による  
雇用の確保・創出**

本市は、高速道路や空港等の広域的な交通体系の利便性に優れ、また、名古屋を中心に立地している様々な関連企業にも近く、強固な地盤も有するなど、新規産業の誘致に非常に有利な立地条件を備えています。

しかし、事業所あたり又は従業者あたりの製造品出荷額等は愛知県及び近隣市町と比べ決して高くなく、中小規模の事業所が多い本市産業を取り巻く経営環境は非常に厳しい状況にあります。

そのため、経営安定化に向けた支援や新たな事業展開を支援するとともに、事業所を誘致するなど産業集積の強化を図ることにより、持続して発展を続ける産業・経済を確立することで、雇用を確保・創出していく必要があります。

数値目標	基準値	目標値(平成 31 年度)
製造業及び卸売業、小売業の従業者数	53,093 人(H26)	54,359 人

### **基本的方向**

- 様々な支援ニーズに対応した支援策を展開するなど、市内企業が今後とも本市で操業継続できる環境づくりを進めるとともに、本市で働く就業者を増やすための取組みを支援していくことで、優れた人材を確保しやすくなるような環境づくりを進めます。

○航空宇宙産業を含む次世代成長産業に関連する企業誘致や市内企業の参入を支援する体制を整備するとともに、これに必要となる人材の確保と育成を支援します。また、企業が進出しやすい条件を整え、安価で良好な操業環境を確保できる土地を開発・整備していくことで、新規企業の誘致及びその受け皿の確保を進めます。

○多様な中小事業所が有する高い技術力や人材等を活かし、新しい分野に取り組む企業・事業所の育成を進めるとともに、新たな地域資源等の付加価値を高める産業展開を図る事業者を支援します。また、起業を目指す人たちに必要な情報やノウハウ、資金等を提供するなど起業に対する支援を行うとともに、市内企業での人材育成を支援することにより起業意欲を掘り起こすことで、これから的小牧の産業を担い、支えていくことができる人づくりを進めます。

## 基本目標達成に向けた施策体系

1. 市内企業の操業支援	(1)市内企業の操業環境の改善 (2)企業の人材確保と働き手の就労支援
2. 企業誘致と産業集積の推進	(1)次世代成長産業(航空宇宙産業)の集積強化 (2)企業誘致・工業用地の確保
3. 起業・新産業展開への支援	(1)新たな取組みへのサポート (2)未来の小牧を支える人づくり

## 施策1. 市内企業の操業支援

### (1)市内企業の操業環境の改善

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(平成31年度)
市内企業の工場新增設に対する補助金の認定件数(累計)	9件(H26)	19件

主な取組み	内容
①新增設・設備投資支援	市内企業の継続操業及び市外や県外への流出を防止するため、工場の新增設や設備の更新、増設に対する支援を行います。
②周辺環境対策支援	周辺住民への配慮のため、工場等の騒音、振動及び臭気を防止する設備又は改修に対する支援を行います。

### (2)企業の人材確保と働き手の就労支援

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(平成31年度)
中小企業人材育成研修費補助金*の活用件数(受講者数累計)	28人(H26)	250人

主な取組み	内容
①人材の確保・人材育成支援	就職を希望する人に対する窓口の多様化と機能の充実を図るとともに、人材育成のための各種研修事業に対する費用の一部支援を行います。
②新規雇用の創出(就労)支援	市内企業の人材採用を促進するため、新規に雇用を行う企業に対して各種支援策を実施します。
③就業環境の改善・充実支援	保育のための施設を設置する事業所に対して費用の一部等を支援するなど、就労が困難となっている労働者の環境改善を進めます。

## 施策2. 企業誘致と産業集積の推進

### (1) 次世代成長産業(航空宇宙産業)の集積強化

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(平成31年度)
次世代成長産業分野に属する新規企業の数 (累計)	2件(H26)	4件

主な取組み	内容
①研究開発・技術開発支援	新技術等の研究開発等に対する支援を行うとともに、産学官の連携や異業種、異分野が連携する新技術開発等の支援を行います。
②次世代成長産業参入支援	航空機部品製造認証等の取得支援や展示会等への出展支援、セミナーの開催など航空宇宙産業を含む次世代成長産業への参入を試みる企業の支援を行います。

### (2) 企業誘致・工業用地の確保

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(平成31年度)
新規進出企業の数(累計)	20件(H26)	28件

主な取組み	内容
①工業用地の開発・整備	工業用地造成事業、地区計画制度等の事業・制度を用いて、工業用地の整備に向け調整を進め、新たな企業の進出を誘導します。
②民間活力による工業用地開発支援	開発手続きの簡略化や、関連する制度等の柔軟な適用を進めるとともに、工業用地開発に関連するインフラ整備への支援を行います。
③遊休地・低未利用地の活用促進	有効活用可能な遊休地・低未利用地情報を提供する仕組みを整え、工業用地として活用できるよう道路等のインフラ整備を進めます。

### 施策3. 起業・新産業展開への支援

#### (1)新たな取組みへのサポート

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(平成31年度)
中小企業次世代成長 産業設備等導入補助 金*の認定件数(累計)	3件(H26)	19件

主な取組み	内容
①地域資源等を活用した産業の育成支援	地域資源の活用や、地域資源等の付加価値を高める産業展開を図る事業者に対する支援を行います。
②販路開拓支援	販路開拓に関して、見本市等のPR活動への出展に関する支援を行います。

#### (2)未来の小牧を支える人づくり

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(平成31年度)
創業支援セミナー*の受講者のうち、実際に起業(創業)した人数(累計)	10人(H26)	20人

主な取組み	内容
①起業・創業支援	創業に関するセミナー等の開催や、会社設立に関する諸費用についての助成、一定の創業資金の融資に関する利子補給を行います。
②人材育成支援	人材育成を実施する企業等に対して、人材育成研修費等の補助を行うとともに、新たな人材育成の支援制度の導入を検討します。

## 基本目標2

若年世代の希望がかなう結婚・出産・子育て環境の整備  
(こども夢・チャレンジ No.1 都市<sup>\*</sup>の実現)

本市の自然動態(出生数・死亡数)をみると、一貫して出生数が死亡数を上回っていますが、出生数が減少傾向にある一方、死亡数が増加傾向であるため、その増加幅は縮小傾向にあり、少子化が進行しています。

本市の未婚率は、全国や愛知県と比べて低い水準で推移してきたものの、近年は愛知県に近い水準となっており、晩婚化が進行しています。

また、子育て世代へのアンケート調査の結果をみると、約半数の回答者が「実際の子どもの数は理想の子どもの数より少ない」と回答しており、その理由として、「経済的な負担が大きい」や「仕事と子育ての両立が困難」が多くを占めています。

そのため、若年世代の希望がかなう結婚・出産・育児環境をつくるとともに、子どもを中心に世代を越えて市民がつながり、あたたかく支え合い、暮らしやすい、魅力あるまちづくりを進める必要があります。

数値目標	基準値	目標値(平成31年度)
合計特殊出生率	1.54(H25)	1.61
年少人口(0～14歳)の数	22,091人(H27)	21,314人
安心して子育てができるまちと思う子育て世代(20～40歳代)の割合	59.0%(H26)	70.0%

## 基本的方向

- 結婚について、若年世代の出会いの場を創出する取組みを支援します。また、だれもが安心して子育てができる体制を整えるとともに、子育てと仕事の両立を支える子育て支援サービスの拡充を図ります。
- 夢やチャレンジの象徴である次代の地域を担うこどもたちの夢を育み、夢へのチャレンジを応援する事業を展開するとともに、安全で楽しく学べる教育環境の整備を一層推進することにより、こどもを中心に世代を越えて、市民がつながり、支え合う、住みよいまちづくりを進めます。

## 基本目標達成に向けた施策体系

1. 結婚・出産・子育ての希望をかなえる支援	(1)結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援 (2)子育てと仕事の両立支援
2. こどもの夢・チャレンジの応援	(1)コマキッズドリームプロジェクト*の推進 (2)夢をもって生きる力を育む教育の推進

## 施策1. 結婚・出産・子育ての希望をかなえる支援

### (1)結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(平成31年度)
市が支援した出会いの場を創出する事業におけるカップル成立数(累計)	-(H27)	100組
中央子育て支援センター、子育て広場利用者数	90,112人(H26)	95,000人

主な取組み	内容
①結婚につながる支援	若年世代の出会いの場の創出を支援します。
②妊娠に対する経済支援	妊娠を望んでいる夫婦の経済的負担を軽減するために助成を行います。
③出産・育児を支援する相談体制の充実	妊娠期から出産・育児まで充実した健診や訪問などを実施するとともに、子育て世代が気軽に相談できる体制を整え、切れ目のない支援に努めます。
④子育て家庭が交流し、支えあえる場の充実	親子の孤立化を防ぎ、地域との関わり合いの中で不安感を緩和しながら子育てができるよう、親子が気軽に集い、交流できる場・機会を提供します。
⑤安心して子育てができるための支援	手当の支給や負担の軽減などによる経済的支援を行うとともに、子育てに関して困難を抱えている家庭の把握に努め、状況に応じた支援を行います。

## (2)子育てと仕事の両立支援

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(平成31年度)
待機児童数	31人(H27)	0人

主な取組み	内容
①待機児童の解消	希望するすべての人が子どもを預けて働くことができる体制を整え、待機児童ゼロを目指します。
②放課後児童クラブの充実	児童が安全に放課後を過ごせるよう質の向上や機能の充実を図ります。
③多様な保育ニーズに応える体制の充実	一時保育や延長保育など、多様な保育サービスを実施するとともに、特色ある保育サービスが提供できるよう保育園の民営化を進めます。

## 施策2. こどもの夢・チャレンジの応援

### (1)コマキッズドリームプロジェクトの推進

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(平成31年度)
夢育み事業*に参加した子どもの数	6,364人(H27)	6,400人
夢サポーター*の数(累計)	- (H27)	110団体

主な取組み	内容
①子どもが夢に向かって挑戦する機会の創出	夢の教室及び市内産業見学会の開催や、夢にチャレンジ助成金及び海外留学奨学金を支給するなど、子どもの夢を育み、子ども自身が夢に向かって挑戦できる環境を創出します。
②子どもの夢を応援する体制の整備	市民や企業、市が一体となって、子どもの夢をまち全体で応援する仕組みをつくります。

## (2)夢をもって生きる力を育む教育の推進

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(平成31年度)
小・中学校の教育環境整備実施校数	非構造部材*耐震化:16/23校 防犯カメラ設置:19/25校 インターホン設置:21/25校 エアコン設置:9/25校 (H27)	全ての学校において 整備完了
学校が楽しいと思うことの割合	小学校:92.0% (国:87.0%) 中学校:89.6% (国:82.2%) (H26)	国の水準以上

主な取組み	内容
①安全に安心して学べる教育環境の整備	小・中学校の非構造部材の耐震改修工事、防犯カメラやインターホンの設置、普通教室へのエアコン設置など、こどもが安全に安心して学べる教育環境を整備します。
②地域の特色を活かした教育の推進	地域人材の活用とコミュニティ・スクール*の導入や地域性を活かした学習活動と児童生徒による地域貢献など、地域の特色を活かした教育を推進します。
③グローバルな視野の涵養	英語教育の充実や理数教育における企業等との連携、夢の教室の実施などを通じてグローバルな視野の涵養に努めます。

### 基本目標3

#### 都市の活力と暮らしの安心の創造

「しごと」と「ひと」の好循環を支えるためには、「まち」に活力を取り戻し、こどもから高齢者まで、市民一人ひとりがいきいきと安心して暮らせる環境を実現していく必要があります。

しかし、本市では、若年世代の転出超過が顕著であり、このまま急速な人口減少が進行すると、まちの活力やにぎわいが低下することが懸念されています。

そのため、若年世代が集まる魅力あるまちづくりを進める必要があります。

また、名鉄小牧線沿線や桃花台など一定の地域における人口密度を維持するとともに、日常生活に必要なサービスや行政サービスが住まいの身近に存在する多極ネットワーク型のコンパクトシティ\*を目指す必要があります。

数値目標	基準値	目標値(平成31年度)
名鉄小牧線沿線居住人口	87,404人(H26)	88,602人
健康寿命	男性:79.15歳 女性:83.55歳(H24)	基準値より延伸
安全で安心して暮らせるまちと思う市民の割合	81.3%(H26)	基準値の水準以上

## 基本的方向

- 都市の活力を生むための核となる中心市街地の魅力を高めるとともに、名鉄小牧線沿線を中心に、より多くの市民が便利で快適に暮らせる生活空間を確保し、若年世代が住みやすいまちづくりを進めます。また、市民が積極的に健康づくりに取り組み、社会全体で支援する環境づくりを行います。
- 高齢者が住み慣れた地域の中で安心して介護サービスや医療サービスを切れ目なく受けることができるような体制を充実します。また、災害に強く、犯罪の少ないまちづくりを進めます。さらには、市民の暮らしを支える持続可能な公共交通ネットワークを構築します。

## 基本目標達成に向けた施策体系

1. “まち”も“ひと”も元気ないいきいき社会の創出	(1)若年世代が集まる魅力あるまちの創出 (2)生涯現役、健康いきいき社会の実現
2. だれもが安心して暮らせる地域づくり	(1)福祉・医療・支え合いの仕組みづくり (2)防災・防犯安心社会の創出 (3)暮らしを支える公共交通の構築

## 施策1.“まち”も“ひと”も元気ないきいき社会の創出

### (1)若年世代が集まる魅力あるまちの創出

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(平成31年度)
20～40歳代の名鉄小牧線沿線居住人口	37,875人(H26)	38,345人
名鉄小牧駅の年間乗降客数	3,625,361人(H26)	3,832,000人

主な取組み	内容
①駅周辺の都市機能の強化	まちづくりの核となる中心市街地の魅力を高める整備を進めるとともに、鉄道各駅周辺において、市民が便利で快適に利用できる都市機能を整備します。
②若年世代が住みやすい住環境の創出	名鉄小牧線沿線の市街地において、良好な住宅の供給を促進させるとともに、生活環境を改善し、若年世代が住みやすいまちづくりを進めます。

### (2)生涯現役、健康いきいき社会の実現

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(平成31年度)
健康マイレージ事業*における優待カード発行枚数	- (H26)	350枚
日常生活の中で5,000歩以上歩く市民の割合	77.7%(H25)	83.0%
各種がん検診の受診率	胃がん:20.8% 大腸がん:31.0% 子宮がん:4.4% 乳がん:6.9% (H26)	胃がん:22.8% 大腸がん:33.0% 子宮がん:6.4% 乳がん:8.9%

主な取組み	内容
①心と体の健康づくりへの支援	独自の健康ポイント制度を創設するなど、市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組むことができる環境を整えます。
②病気の予防・早期発見・重症化予防	独自の人間ドック事業など、健診の受診率向上に向けた魅力ある取組みを実施します。

## 施策2. だれもが安心して暮らせる地域づくり

### (1) 福祉・医療・支え合いの仕組みづくり

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(平成31年度)
在宅で医療を受けている市民の数	286人(H25)	500人

主な取組み	内容
①在宅医療の推進	介護と連携した医療の提供や、他職種が切れ目のないサービスを提供できる体制の構築により、在宅医療を推進します。
②地域支え合い活動の推進	地域の住民同士がお互いに支え合う地域の活動を推進するとともに、ひとり暮らし高齢者などの支援や介護予防を推進する環境を整えます。

### (2) 防災・防犯安心社会の創出

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(平成31年度)
災害への備えをしている市民の割合	43.1%(H26)	64.6%
地域の防災訓練に参加した市民の数	4,974人(H26)	5,300人
防犯カメラ設置補助件数(累計)	153件(H26)	346件

主な取組み	内容
①災害に対する備えの強化	防災力向上につながる活動に対する支援を行うとともに、大規模災害に備えた安全対策を実施するなど、災害に強いまちづくりを進めます。
②犯罪が起こりにくい環境の整備	公共空間や駐車場などを撮影対象とする防犯カメラ等の防犯設備の設置を支援するなど、自主的な防犯活動への支援を行います。

### (3)暮らしを支える公共交通の構築

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(平成31年度)
公共交通機関の1日平均利用者数	38,654人(H26)	40,600人

主な取組み	内容
①持続可能な公共交通ネットワークの形成	都市拠点及び地区拠点へのアクセス利便性の向上をバス交通により図るとともに、名鉄小牧線各駅において交通結節機能を強化することにより、市民にとって利用しやすい公共交通を実現します。
②利用しやすい公共交通環境の整備	より多くの人が公共交通を利用するため、バリアフリー対策など、だれもが利用しやすい環境を整えます。

## 基本目標4

### 訪れたくなる、住みたくなる小牧の魅力発信

本市が住民から選ばれるまちとなるには、本市の取組みや魅力を積極的に発信していくことが大切です。また、あわせて地域の強みとなる資産を活用して、そのまちのよいイメージをつくり出していく取組みも大切です。

アンケート調査の結果を見ると、「商業施設の充実」、「育児環境」、「緑地などの自然の多さ」などの項目は市民の満足度が高い一方、近隣市町の居住者は、本市に対してそのようなイメージを持っていないということがわかりました。

そのため、地域ブランド戦略をより一層推進していくとともに、市内外の活発な交流を推進することで、より多くの人が「訪れたくなる」、「住みたくなる」、「住みつけたい」小牧を目指す必要があります。

数値目標	基準値	目標値(平成31年度)
20～40歳代の平均転出超過数	61人 (H24～H26の平均)	基準値より改善 (H29～H31の平均)

#### 基本的方向

○本市に対する愛着や誇りを醸成するため、こどもたちの夢を育み、夢へのチャレンジを応援する事業を開発するとともに、“夢・チャレンジ 始まりの場所”である小牧山の歴史的価値の発信と魅力の向上に取り組みます。

○住民、行政、事業者、観光協会など様々な主体が地域資源を見つめなおし、連携してその資源を磨き、育てることでその付加価値を高め、魅力の向上を図るとともにその魅力を伝えることで交流を促します。

○若年世代が本市に定住するきっかけとなるよう、本市の取組みや魅力、本市における生活イメージを企業と協力して発信するとともに、定住につながる支援を実施します。

## 基本目標達成に向けた施策体系

1. 地域ブランド戦略の推進	(1)コミュニケーションプログラム*の推進 (2)コマキッズドリームプロジェクトの推進【再掲】 (3)小牧山シンボルスポットプロジェクト*の推進
2. 市内外の活発な交流の推進	(1)活発な交流の推進
3. 若年世代の定住促進	(1)定住につながる仕組みづくり

### 施策1. 地域ブランド戦略の推進

#### (1)コミュニケーションプログラムの推進

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(平成31年度)
小牧市のブランドロゴマーク及びキャッチフレーズを知っている市民の割合	38.0%(H26)	51.5%
ブランドWEBサイトのアクセス件数	- (H27)	20,000件

主な取組み	内容
①目指すまちのイメージの発信	公共施設のピクトグラムにブランドロゴのキャラクターを使用したり、ブランド絵本やポスター、ブランドムービーなどを制作します。

## (2)コマキッズドリームプロジェクトの推進【再掲】

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(平成 31 年度)
夢育み事業に参加した子どもの数	6,364 人(H27)	6,400 人
夢サポーターの数(累計)	－(H27)	110 団体

主な取組み	内容
①子どもが夢に向かって挑戦する機会の創出	夢の教室及び市内産業見学会の開催や、夢にチャレンジ助成金及び海外留学奨学金を支給するなど、子どもの夢を育み、子ども自身が夢に向かって挑戦できる環境を創出します。
②子どもの夢を応援する体制の整備	市民や企業、市が一体となって、子どもの夢をまち全体で応援する仕組みをつくります。

## (3)小牧山シンボルスポットプロジェクトの推進

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(平成 31 年度)
小牧市歴史館の入場者数	68,929 人(H26)	75,000 人
イベントなどへの「こまき山*」の出動回数	86 回(H27)	100 回

主な取組み	内容
①小牧山の歴史的価値の発信強化	歴史的資産である小牧山を広く周知するために、体験や学習、研究や情報発信の拠点を整備します。
②小牧山への愛着醸成・認知度向上	小牧山をモチーフとしたキャラクター「こまき山」を通して、小牧山にまつわる「夢・チャレンジのストーリー」を発信し、市民の小牧山への愛着を醸成するとともに、市内外における小牧山の認知度を高めます。

## 施策2. 市内外の活発な交流の推進

### (1) 活発な交流の推進

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(平成31年度)
主要なイベント及び地域資源への来訪者の数 (交流人口)	2,213,229人(H26)	2,843,000人

主な取組み	内容
①魅力ある観光の推進	多彩な地域資源を磨き、育てることで付加価値を高め、その魅力の向上を図るとともに、その魅力を伝えることで交流を促すという一連の観光への取組みにより、市民の本市への愛着や誇りを醸成します。
②魅力あるイベント・まつりの開催	魅力あるイベントやまつりを開催することにより、市内外の活発な交流を促します。

## 施策3. 若年世代の定住促進

### (1) 定住につながる仕組みづくり

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(平成31年度)
定住支援補助件数(累計)	- (H27)	120件

主な取組み	内容
①定住につながるプロモーションの強化	本市の取組みや魅力、生活イメージなど本市の住環境情報を不動産業界や金融機関等と協力して積極的に発信します。
②定住につながる支援	空き家の活用や子育て世代の住宅取得に対する支援などを実施します。

## 総合戦略における施策及びKPI一覧表

基本目標、施策	数値目標、KPI	基準値	目標値(H31)	目標値の説明	担当課
◆基本目標1 持続して発展を続ける産業・経済の確立による雇用の確保・創出	製造業及び卸売業、小売業の従業者数 【経済センサスにおける製造業及び卸売業、小売業の従業者の合計】	53,093人 (H26)	54,359人	企業統計調査(H16)と経済センサス(H26)における従業者数による増加率と人口ビションのシナリオ2による生産年齢人口の減少率を乗じて算出した平成31年の従業者数を目指す。	商工振興課
● 施策1 市内企業の操業支援					
(1) 市内企業の操業環境の改善	市内企業の工場新增設に対する補助金の認定件数(累計) 【市内企業の企業立地促進補助金及び市内企業再投資促進補助金認定件数】	9件 (H26)	19件	企業立地促進補助金及び市内企業再投資促進補助金について、2件/年度の認定を目指す。	企業立地推進課
(2) 企業の人材確保と働き手の就労支援	中小企業人材育成研修費補助金の活用件数(受講者数累計)	28人 (H26)	250人	補助金の終期設定である平成30年度までの4年間、過去の実績(44件/年度の増加)に制度周知による増加を見込んだ250名を目指す。	商工振興課
● 施策2 企業誘致と産業集積の推進					
(1) 次世代成長産業(航空宇宙産業)の集積強化	次世代成長産業分野に属する新規企業の数(累計) 【新たに市内に立地した次世代成長産業分野に属する企業の累計数】	2件 (H26)	4件	誘致企業のうち25%は、次世代成長産業の誘致を目指す。	企業立地推進課
(2) 企業誘致・工業用地の確保	新規進出企業の数(累計) 【新たに市内に立地した企業(製造業)の累計数】	20件 (H26)	28件	1~2件/年度の企業誘致を目指す。	企業立地推進課
● 施策3 起業・新産業展開への支援					
(1) 新たな取組みへのサポート	中小企業次世代成長産業設備等導入補助金の認定件数(累計)	3件 (H26)	19件	補助金の終期設定である平成30年度までの4年間、4件/年度の認定を目指す。	商工振興課
(2) 未来の小牧を支える人づくり	創業支援セミナーの受講者のうち、実際に起業(創業)した人数(累計)	10人 (H26)	20人	平成27~31年度までの5年間で、2人/年度の起業を目指す。	商工振興課

基本目標、施策	数値目標、KPI	基準値	目標値(H31)	目標値の説明	担当課
◆基本目標2 若年世代の希望がかなう結婚・出産・子育て環境の整備 (こども夢・チャレンジ No.1都市の実現)	合計特殊出生率 【1人の女性が一生に産む子どもの平均数】  年少人口(0~14歳)の数 【各年10月1日時点における年少人口(0~14歳)の数】  安心して子育てができるまちと思う子育て世代(20~40歳代)の割合 【市民意識調査】	1.54 (H25)  22,091人 (H27)  59.0% (H26)	1.61  21,314人  70.0%	人口ビジョンのシナリオ2における推計から算出した平成31年の合計特殊出生率を目指す。  平成31年10月1日の年少人口について、人口ビジョンのシナリオ2における推計から算出した人口を目指す。  年齢別における過去最高値(H25、40歳代の69.6%)を超える水準を、20~40歳代全体を目指す。	こども政策課  秘書政策課  秘書政策課
● 施策1 結婚・出産・子育ての希望をかなえる支援					
(1) 結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援	市が支援した出会いの場を創出する事業におけるカップル成立数(累計)	ー (H27)	100組	平成27年度に商工会議所が実施した婚活イベントでは21組成立したが、平成28年度より支援事業を実施することにより、この水準を超える25組/年度のカップル成立数を目指す。	こども政策課
	中央子育て支援センター、子育て広場利用者数	90,112人 (H26)	95,000人	少子化が進んでおり、今後の推計をみても引き続き減少していく見込みであるため、平成31年度において、過去3年の平均値と同じ水準を目指す。	こども政策課
(2) 子育てと仕事の両立支援	待機児童数 【保育園入所要件に該当しているが入園できなかった数(自己都合を除く)】	31人 (H27)	0人	保育園等への入所要件を満たしている児童すべてが各年4月1日時点において保育園等へ入園できることを目指す。	保育課
● 施策2 こどもの夢・チャレンジの応援					
(1) コマキッズドリームプロジェクトの推進	夢育み事業に参加したこどもの数	6,364人 (H27)	6,400人	夢育み事業の内容は、地域ブランドアクションプログラムの内容の見直しと共に変更されるものであるため、平成31年度において、現在と同程度の参加者数を維持することを目指す。	こども政策課
	夢サポーターの数(累計)	ー (H27)	110団体	平成28年度(初年度)50団体、平成29年度以降は年20団体の登録を目指す。	こども政策課
(2) 夢をもって生きる力を育む教育の推進	小・中学校の教育環境整備実施校数	非構造部材耐震化： 16/23校 防犯カメラ設置： 19/25校 インターホン設置： 21/25校 エアコン設置： 9/25校 (H27)	全ての学校において整備完了	小牧小学校、味岡中学校を除く小・中学校23校の校舎・体育館などの非構造部材耐震改修を実施する。また、防犯カメラ、インターホン、エアコンを全ての小・中学校に設置する。	教育総務課
	学校が楽しいと思うこどもの割合 【市民意識調査】	小学校： 92.0% (国： 87.0%) 中学校： 89.6% (国： 82.2%) (H26)	国の水準以上	市民意識調査における数値が、全国学力・学習状況調査における国の水準以上を維持することを目指す。	学校教育課

基本目標、施策	数値目標、KPI	基準値	目標値(H31)	目標値の説明	担当課
◆基本目標3 都市の活力と暮らしの安心の創造	名鉄小牧線沿線居住人口 【名鉄小牧線沿線市街地に居住する人口】	87,404人 (H26)	88,602人	これまで名鉄小牧線沿線地区における都市基盤整備を進めてきたことによって沿線地区的居住率が上昇したが、さらなる居住率の上昇を目指し、継続して都市基盤整備の進捗を図る。 目標値は沿線地区における過去5ヵ年の10月1日における居住率の変化から上昇率を算出し、これに都市基盤整備の主要事業である土地区画整理事業3地区の地区毎の事業費を加味し算出した居住人口の達成を目指す。	都市政策課
	健康寿命 【日常生活動作が自立している期間】	男性：79.15歳 女性：83.55歳 (H24)	基準値より延伸	平成31年の健康寿命を基準値から延伸することを目指す。	保健センター
	安全で安心して暮らせるまちと思う市民の割合 【市民意識調査】	81.3% (H26)	基準値の水準以上	基準値以上を維持することを目指す。	危機管理課
● 施策1 “まち”も“ひと”も元気ないきいき社会の創出					
(1) 若年世代が集まる魅力あるまちの創出	20～40歳代の名鉄小牧線沿線居住人口 【名鉄小牧線沿線市街地に居住する20～40歳代の人口】	37,875人 (H26)	38,345人	全年齢層の沿線居住人口は、平成26年から平成31年までに1,198人増加することを目指している。このうち、平成31年における20～40歳代の人口割合が39.2%あると推計されることから、470人の増加を目指す。	都市政策課
	名鉄小牧駅の年間乗降客数	3,625,361人 (H26)	3,832,000人	近年の利用者数の伸び率(1.01%)を平成31年度まで見込んだ利用者数を目指す。	都市政策課
(2) 生涯現役、健康いきいき社会の実現	健康マイレージ事業における優待カード発行枚数	— (H26)	350枚	実施初年度（平成27年度）3ヶ月間の発行実績40枚から28年度は約160枚の申請を見込み、その後年間30%の伸びを目指す。	保健センター
	日常生活の中で5,000歩以上歩く市民の割合 【市民意識調査】	77.7% (H25)	83.0%	平成21年度実施の健康いきいきプラン中間評価時の値から下降しているため、平成21年度の実績値を目指す。	保健センター
	各種がん検診の受診率 【受診者数/(人口－(就業者数－農林水産業従事者数))】 ※40歳以上（子宮がん検診は20歳以上）	胃がん： 20.8% 大腸がん： 31.0% 子宮がん： 4.4% 乳房がん： 6.9% (H26)	胃がん： 22.8% 大腸がん： 33.0% 子宮がん： 6.4% 乳房がん： 8.9%	各がん検診の過去5年度の受診率から算出し、各検診とも2%の増加を目指す。	保健センター
● 施策2 だれもが安心して暮らせる地域づくり					
(1) 福祉・医療・支え合いの仕組みづくり	在宅で医療を受けている市民の数	286人 (H25)	500人	10年後に在宅医療体制を整備することを見据えた場合に推計される平成31年度の人数を目指す。	地域福祉課

基本目標、施策	数値目標、KPI	基準値	目標値(H31)	目標値の説明	担当課
(2) 防災・防犯 安心社会の創出	災害への備えをしている市民の割合 【市民意識調査】	43.1% (H26)	64.6%	平成26年度実績における居住地別の最高値が64.6%。平成31年度には全ての地区でこの水準の達成を目指す。	危機管理課
	地域の防災訓練に参加した市民の数	4,974人 (H26)	5,300人	平成27年度の協働事業の参加者数を参考に、自主防災会の小学校区合同訓練の導入など総合的に勘案した平成31年度の目標値を目指す。	危機管理課
	防犯カメラ設置補助件数（累計）	153件 (H26)	346件	区（公共空間）への設置補助：平成28～31年度の4年間で、10件/年度の補助の実施を目指す。事業者（駐車場他）への設置補助：平成27年度は33件/年度、平成28～31年度の4年間は、30件/年度の補助の実施を目指す。	市民安全課
(3) 暮らしを支える公共交通の構築	公共交通機関の1日平均利用者数 【名鉄小牧線、路線バス、こまき巡回バスなどの1日平均利用者数の合計】	38,654人 (H26)	40,600人	近年の利用者数の伸び率(1.01%)を平成31年度まで見込んだ利用者数を目指す。	都市政策課
◆基本目標4 訪れたくなる、住みたくなる小牧の魅力発信	20～40歳代の平均転出超過数	61人 (H24～H26の平均)	基準値より改善 (H29～H31の平均)	平成29～31年における20～40歳代の平均転出超過数が、平成24～26年ににおける数(61人)より改善することを目指す。	秘書政策課
● 施策1 地域ブランド戦略の推進					
(1) コミュニケーションプログラムの推進	小牧市のブランドロゴマーク及びキャッチフレーズを知っている市民の割合 【市民意識調査】	38.0% (H26)	51.5%	年齢別における最高値が30歳代の51.5%。平成31年度にはすべての年代においてこの水準の達成を目指す。	秘書政策課
	ブランドWEBSITEのアクセス件数	— (H27)	20,000件	平成27年における市ホームページの「子育て」ページと同等のアクセス数を目指す。	秘書政策課
(2) コマキッズドリームプロジェクトの推進【再掲】	夢育み事業に参加した子どもの数	6,364人 (H27)	6,400人	夢育み事業の内容は、地域ブランドアクションプログラムの内容の見直しと共に変更されるものであるため、平成31年度において、現在と同程度の参加者数を維持することを目指す。	こども政策課
	夢サポーターの数（累計）	— (H27)	110団体	平成28年度（初年度）50団体、平成29年度以降は年20団体の登録を目指す。	こども政策課
(3) 小牧山シンボルスポットプロジェクトの推進	小牧市歴史館の入場者数	68,929人 (H26)	75,000人	平成30年にオープン予定の（仮称）史跡センターとの連携による入館者数の増加を見込み、平成31年度の目標値を目指す。	文化振興課
	イベントなどへの「こまき山」の出動回数	86回 (H27)	100回	イベントやメディアへの出演を増やし、100件/年度の出動を目指す。	秘書政策課
● 施策2 市内外の活発な交流の推進					
(1) 活発な交流の推進	主要なイベント及び地域資源への来訪者の数（交流人口） 【市民まつりなどの主要なイベントや四季の森などの地域資源への来訪者数】	2,213,229人 (H26)	2,843,000人	小牧市観光振興基本計画における目標値3,000,000人(H32)から算出した平成31年度の交流人口を目指す。	シティプロモーション課
● 施策3 若年世代の定住促進					
(1) 定住につながる仕組みづくり	定住支援補助件数（累計）	—(H27)	120件	平成28～31年度の4年間で、30件/年度の補助の実施を目指す。	建築課

## 用語解説

用語	解説
【か行】	
健康マileyージ事業	健康に関する事業への参加やウォーキング等、自分に合った健康づくりにチャレンジして、マileyージ(ポイント)をため、楽しみながら健康づくりができる事業。
こども夢・チャレンジ No.1 都市	本市の特徴である「子育て支援が充実している」姿を一層高め、さらに高い地域の姿である「こどもを中心にして世代を超えて、市民がつながり、支え合う、住みよいまち」を小牧市全体で目指すこと。
コマキッズドリームプロジェクト	地域ブランド戦略で示したブランドコンセプトを実現するために行う、こどもの夢を応援する施策を取りまとめたプロジェクト。
こまき山	ブランドコンセプト「夢・チャレンジ 始まりの地 小牧」を市内外に発信し、こどもの夢への挑戦を応援する小牧市マスコットキャラクター。
小牧山シンボルスポット プロジェクト	地域ブランド戦略で示したブランドコンセプトを実現するために行う、小牧山を市民にとっての「精神的なシンボル」としていくための施策を取りまとめたプロジェクト。
コミュニケーションプログラム	地域ブランド戦略で示したブランドコンセプトを市民の皆さんに伝えていく取組み。
コミュニティ・スクール	学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともににある学校づくり」を進める仕組み。
【さ行】	
創業支援セミナー	創業検討中の方、準備を進めている方、創業されて間もない方などを対象に、創業の基礎知識とビジネスプランの立て方、計画的な資金調達などをわかりやすく説明する、小牧市及び小牧商工会議所主催のセミナー。

用語	解説
【た行】	
多極ネットワーク型のコンパクトシティ	一定区域内の人口密度を維持するとともに、医療・福祉施設、商業施設や住居等がまとまって立地し、あるいは、高齢者をはじめとする住民が公共交通により医療・福祉施設や商業施設等にアクセスできるなど、日常生活に必要なサービスや行政サービスが住まい等の身近に存在する都市構造。
地域ブランド戦略	市民からいつまでも「住みたい」「住み続けたい」と思われるまちを目指すため、「夢・チャレンジ 始まりの地 小牧」をブランドコンセプトに、地域の特色を活かした魅力あるまちづくりを行い、小牧市に対する市民の愛着や誇りを醸成するための取組み。
中小企業次世代成長産業設備等導入補助金	中小企業の次世代成長産業(航空宇宙、次世代自動車、環境・新エネルギー、ロボット、情報通信、健康長寿等)分野における新たな設備導入費用の一部を補助する制度。
中小企業人材育成研修費補助金	中小企業に対し、中小企業大学校、中部職業能力開発促進センター(ポリテクセンター中部)及び商工会議所等が実施する研修等の受講料の一部を補助する制度。
【は行】	
非構造部材	構造設計の主な対象となる柱や梁などの構造体(躯体)ではなく、天井材や外壁(外装材)、照明器具、家具、窓ガラスなど構造体ではない部材。
【や行】	
夢サポーター	「コマキッズドリームプロジェクト」を支援するために、市とともに子どもの夢を応援していただける団体・企業。
夢育み事業	子どもの夢を育み、夢へのチャレンジを応援する事業。

小牧市人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略  
(平成27～31年度)

---

発 行 小 牧 市

作 成 市長公室 秘書政策課

〒 485-8650

小牧市堀の内三丁目1番地

TEL 72-2101

<http://www.city.komaki.aichi.jp/>

---

(平成28年3月)



小 牧 市